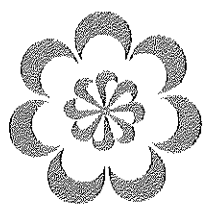


資料 1

令和 5 年度

事業報告書



社会福祉法人 永光会

法人本部

1. はじめに（法人本部総括）

令和5年5月より、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「2類」から「5類」に引き下げられたが、令和5年度も永光荘、清流の郷ともに、利用者や職員が罹患するケースが散見し、利用者や職員には大きな負担をかける結果となった。最近では感染源の特定すら難しく、防止策としては、マスクの着用や消毒等の決められたことを地道に行うしかすべはない状況であるが、施設内の感染時には、過去のクラスター発生の経験を踏まえた感染症マニュアルやBCP等の見直しにより、大きな混乱なく対応ができています。

一方、両施設のデイサービスに関する予算の大幅な減額補正に見られるとおり、居宅介護関係の利用者の維持・獲得が課題となった年度であった。他の事業でも利用者数の変動と、人件費や物価高による経費増のため収支差額が出づらく、設備更新などもネックになっている。令和6年度は令和5年度の結果を踏まえて見直した中期計画や各事業所の事業計画を実行に移しながら、健全な経営をめざしたい。

令和5年度の法人本部事業計画に掲げた重点取り組み事項と事業実績等について、概要を以下に記し総括とする。

1) 重点取り組み事項

①新型コロナウイルス感染症対策の再構築

A) 事業継続計画（感染症BCP）の見直しと改善

令和4年度から令和5年度にかけて発生したクラスターを踏まえ、両施設で感染症BCPの見直しを再度行った。特に過去の大規模クラスター発生時の反省を踏まえて対応した結果、重症にはならず、収束することができた。

B) BCPに基づく訓練の実施とBCM（マネジメント）の推進

令和5年10月23日、経営協BCP策定モデルの一環として、県社協、渋川市危機管理室等が参加し、福祉避難所開設訓練を行った。

②財政基盤の確立

A) 施設稼働率の向上

デイサービス利用者増を図るため、施設の特徴を記したチラシを作成し、介護支援事業所等に配布した。問い合わせ等もあったが、コロナ感染の時期とも重なり、実際の利用者増までは至らず、結果的には、収入の減額補正をお願いすることとなってしまった。

③業務の効率化等による経費の削減

眠りスキャンや離床センサー付き低床ベッドを導入し、利用者の安全と職員負担を図った。また食堂ホールなどの現場にパソコンを設置することにより、介護職員の時間の効率的な使用につながった。

表 1 - 1

令和 5 年度 法人合算資金収支総括表

(単位：千円)

| | 決算額 (A) | 補正後予算額 (B) | | 当初予算額 (C) | |
|------------------|---------|------------|---------|-----------|---------|
| | | | (A-B) | | (A-C) |
| 事業活動収入 (a) | 885,490 | 891,766 | △6,276 | 938,026 | △52,536 |
| 事業活動支出 (b) | 878,139 | 891,058 | △12,919 | 910,408 | △32,269 |
| ①収支差額 (a-b) | 7,351 | 708 | 6,643 | 27,618 | △20,267 |
| ②施設整備等資金収支差額 | △5,639 | △6,655 | 1,016 | △8,955 | 3,316 |
| その他の活動収入 (c) | 172 | 182 | 10 | 1,482 | 1,310 |
| その他の活動支出 (d) | 15,810 | 15,834 | 24 | 16,554 | △744 |
| ③収支差額 (c-d) | △15,638 | △15,652 | 14 | △15,072 | △566 |
| 当期資金収支差額 (①+②+③) | △13,926 | △21,599 | 7,673 | 3,591 | △17,517 |

表 1 - 2

当期資金収支差額の推移表

| 年度 | 令和 2 年度 | 令和 3 年度 | 令和 4 年度 | 令和 5 年度 | 令和 6 年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|----------|
| 金額 (千円) | △11,524 | 4,982 | △62,961 | △13,926 | (△2,894) |

() は予算

表 1 - 3

各事業の介護保険収入等

単位：千円

| 各事業 | 年度 | | | | |
|---------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | 令和元年度 | 令和 2 年度 | 令和 3 年度 | 令和 4 年度 | 令和 5 年度 |
| 永光荘特養 | 357,657 | 363,436 | 359,943 | 352,067 | 366,292 |
| 永光荘ショートステイ | 43,476 | 41,662 | 43,810 | 43,535 | 43,512 |
| 永光荘デイサービス | 88,449 | 80,939 | 81,185 | 77,955 | 70,382 |
| 清流の郷特養 | 244,276 | 247,999 | 250,615 | 253,425 | 255,889 |
| 清流の郷ショートステイ | 25,373 | 25,646 | 26,073 | 44,574 | 42,920 |
| 清流の郷デイサービス | 91,476 | 81,993 | 82,474 | 70,896 | 62,896 |
| 居宅介護支援事業所 | 19,662 | 14,995 | 16,505 | 15,854 | 20,124 |
| 地域包括支援センター(※) | 21,127 | 21,024 | 21,283 | 21,123 | 20,987 |
| 合計 | 891,496 | 877,694 | 881,888 | 879,429 | 883,002 |

※指定介護予防支援事業所を含む。

上記表 1 - 1 ~ 3 に記載する令和 5 年度の数値は決算理事会報告時のもの。

2. 評議員会及び理事会等の運営

令和5年度は、評議員会3回、理事会4回、監事監査1回を開催し、各事業の円滑な執行に努めた。

1) 評議員会の運営状況

| 通算回数 | 実施日 | 評議員出席/定数 | 監事出席/定数 |
|----------|----------|----------|---------|
| ①通算第76回 | R5. 6.16 | 6/9 | 2/2 |
| ② // 77回 | R5.12. 1 | 7/9 | 1/2 |
| ③ // 78回 | R6. 3.22 | 8/9 | 2/2 |

※議題、結果については、表2-1に示す。

2) 理事会の運営状況

| 通算回数 | 実施日 | 理事出席/定数 | 監事出席/定数 |
|-----------|----------|---------|---------|
| ①通算第172回 | R5. 5.26 | 8/8 | 2/2 |
| ② // 173回 | R5. 6.16 | 8/8 | 2/2 |
| ③ // 174回 | R5.11.17 | 7/8 | 2/2 |
| ④ // 175回 | R6. 3. 8 | 8/8 | 1/2 |

※議題、結果については、表2-2に示す。

3) 監事監査の実施状況

実施日 : 令和 5年 5月12日 (金)

実施内容 : 令和4年度会計執行状況及び法人・施設運営状況

結果報告 : 第172回理事会及び第76回評議員会にて報告

4) 法人運営会議開催状況 (業務執行理事会議) の開催

「永光荘」、「清流の郷」、「居宅介護支援事業所」及び「地域包括支援センター」の運営管理 詳細はそれぞれの事業報告書に記載した。

5) 法人行動指針に沿った具体的な取組み

①法人組織統治の強化

A) 理事・監事の改選

R5. 6.16 第76回評議員会にて選任 (重任)

R6. 3. 8 第175回理事会にて理事の推薦 (R6. 3.22 第78回評議員会において承認)

B) 基本理念、行動指針、倫理綱領等の職員への教育

R5. 4.1 永光会入社式後新人研修にて。R5. 4月全職員に本部含む事業計画書を配布

②コンプライアンスの徹底

規程のみでなく、コンプライアンスガイドラインを策定し、職員の理解を深めた。

③安心・安全な環境整備

I C T等の導入は上記のとおり。S D G sについては、3か月毎に重点目標を掲げ、法人全体で取り組んだ。

④地域共生社会の確立

・ 渋川市地域包括支援センターについては、渋川市から令和6年度から3年間の委託が決定し、引き続き古巻地区の相談窓口としての機能を継続することとなった。

・ 居宅介護支援事業所永光荘は、令和5年度から正職3人パート2人による5人体制で加算の取得等など報酬アップを図ったが、新規契約と契約解除の動きもあり、目標件数には到達しなかった。ただし、デイサービス等のサービス利用につなげる営業部門的な部署でもあることから、健全な運営をめざしながら併設サービスの利用増につなげたい。

⑤地域の信頼を得るための積極的な活動

- ・ 厚生労働省の財務諸表等電子開示システムを通じ法人概要、財務諸表及び地域における公益的な取組等を公開。
- ・ 広報紙「永光会たより」 4回発行（各1,300部）
- ・ 採用情報や活動状況報告の充実化を図るため、法人のホームページの改修に取り掛かった。

⑥人材確保と定着に向けた取組み

- ・ 永光荘管理部でフレックスタイム制度を正式導入し、居宅介護支援事業所永光荘では試行した結果、令和6年度から正式導入することになった。
- ・ 介護福祉士養成校等の就職説明会への参加
- ・ 留学生アルバイト雇用及び奨学金受給に係る保証人（外国人対策）
新規2人
- ・ 施設内・外研修への参加、委員会活動の活性化（詳細は各事業報告）

表A 新卒者採用状況

| 年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 |
|-----|-------|-------|-------|--------|
| (人) | 2 | 2 | 2 | 2 (予定) |

表B 外国籍職員採用状況 (上記のうち)

| 年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 |
|-----|-------|-------|-------|--------|
| (人) | 1 | 1 | 1 | 2 (予定) |

表C 新卒以外の中途採用者の状況 (パート含む)

| 年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
|-----|-------|-------|-------|
| (人) | 4 | 19 | 15 |

表D 離職率の状況

| 年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
|-----|-------|-------|-------|
| (%) | 6.0 | 12.0 | 9.8 |

*職員離職率は全国水準 (目標15%) を下回っている。

表E 事業所別採用・退職実績 (人)

| 事業所 | 職 種 | 採 用 | 退 職 |
|--------|--------------|-----|-----|
| 永光荘 特養 | 施設長 | | 1 |
| 永光荘 特養 | 介護 (常勤) | 4 | 5 |
| 〃 〃 | 介護 (非常勤) | 5 | 1 |
| 〃 デイ | 看護 (常勤) | 1 | |
| 清流の郷特養 | 介護 (常勤) | 3 | 1 |
| 〃 〃 | 介護 (非常勤) | 2 | 3 |
| 〃 〃 | 看護 (常勤) | 1 | |
| 〃 ショート | 介護 (常勤) | | 1 |
| 〃 〃 | 介護 (非常勤) | | 1 |
| 〃 デイ | 介護 (非常勤) | | 1 |
| 居宅介護 | 介護支援専門員 (常勤) | 1 | |
| 古巻地域包括 | 介護支援専門員 (常勤) | | 1 |
| 合 計 | | 17 | 15 |

表2-1

評議員会の運営状況

| 通算 回数 | 議題・結果 |
|----------|--|
| 76 | <p>*令和4年度事業報告（①法人本部②特別養護老人ホーム永光荘（管理部、特養部、居宅ケア部（永光荘デイサービスセンター、永光荘ショートステイ）③特別養護老人ホーム清流の郷（管理部、特養部（特別養護老人ホーム、ショートステイ）、デイサービス部）④居宅介護支援事業所永光荘 ⑤地域包括支援センター（渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所）について <承認></p> <p>*令和4年度決算（案）（①本部会計②永光荘（特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター）③清流の郷（特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター）④居宅介護支援事業所永光荘⑤地域包括支援センター（渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所）について <承認></p> <p>*監事による監査報告</p> <p>*社会福祉法人永光会役員の選任について <承認></p> |
| 77 | <p>*令和5年度一次補正予算（案）（①永光荘（特別養護老人ホーム永光荘、永光荘デイサービスセンター）②清流の郷（清流の郷デイサービスセンター）③居宅介護支援事業所永光荘について <承認></p> |
| 78 | <p>*令和5年度2次補正予算（案）（①本部会計②永光荘（特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター）③清流の郷（特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター）④居宅介護支援事業所永光荘⑤地域包括支援センター（渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所））について <承認></p> <p>*令和6年度事業計画（案）（①法人本部②永光荘（管理部、特養部、居宅ケア部）③清流の郷（管理部、特養部、デイサービス部）④居宅介護支援事業所永光荘⑤地域包括支援センター（渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所））について <承認></p> <p>*令和6年度予算（案）（①本部会計②永光荘（特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター）③清流の郷（特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター）④居宅介護支援事業所永光荘⑤地域包括支援センター（渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所））について <承認></p> <p>*社会福祉法人永光会理事の選任について <承認></p> |

表 2 - 2

理事会の運営状況

| 通算 回数 | 議題・結果 |
|----------|---|
| 172 | <p>* 令和4年度事業報告(案) (①法人本部②特別養護老人ホーム永光荘(管理部、特養部、居宅ケア部(永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター)③特別養護老人ホーム清流の郷(管理部、特養部(特別養護老人ホーム、ショートステイ)、デイサービス部)④居宅介護支援事業所永光荘⑤渋川市古巻地域包括支援センター(渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所))について <承認></p> <p>* 令和4年度決算(案) (①本部会計②永光荘(特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター)③清流の郷(特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター)④居宅介護支援事業所永光荘、⑤渋川市古巻地域包括支援センター(渋川市地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所))について <承認></p> <p>* 監事による監査報告</p> <p>* 社会福祉法人永光会役員(案)について <承認></p> <p>* 社会福祉法人永光会定時評議員会の開催について <承認></p> <p>* 理事長及び業務執行理事の職務執行状況について(報告)</p> <p>* 寄付の報告について(報告)</p> |
| 173 | <p>* 社会福祉法人永光会理事長の選任について <承認></p> <p>* 社会福祉法人永光会業務執行理事の選任について <承認></p> <p>* 永光荘クラスター発生について(報告)</p> <p>* 紙おむつ再生プロジェクトについて(報告)</p> <p>* 渋川市地域包括支援センター委託公募の参加について(報告)</p> |
| 174 | <p>* 令和5年一次補正予算(案) (①永光荘(特別養護老人ホーム永光荘、永光荘デイサービスセンター)、②清流の郷(清流の郷デイサービスセンター)、③居宅介護支援事業所永光荘について <承認></p> <p>* 社会福祉法人永光会評議員会の開催について <承認></p> <p>* 理事長及び業務執行理事の職務執行状況について(報告)</p> <p>* 永光荘クラスター発生に関する報告書について(報告)</p> |
| 175 | <p>* 令和5年度二次補正予算(案) (①永光荘(特別養護老人ホーム永光荘、永光荘デイサービスセンター)、②清流の郷(特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター)、③居宅介護支援事業所永光荘、④地域包括支援センター(渋川市古巻地域包括支援センター)、⑤本部会計)について <承認></p> <p>* 社会福祉法人永光会運営規程の一部変更について <承認></p> <p>* 令和6年度事業計画(案) (①法人本部②特別養護老人ホーム永光荘(管理部、特養部、居宅ケア部)③特別養護老人ホーム清流の郷(管理部、特養部、デイサービス</p> |

| | |
|--|------|
| 部) ④居宅介護支援事業所永光荘⑤地域包括支援センター (渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所)) について | <承認> |
| *令和6年度予算(案) (①本部会計②永光荘(特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター) ③清流の郷(特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター) ④居宅介護支援事業所永光荘⑤地域包括支援センター(渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所)) について | <承認> |
| *重要な役割を担う職員の選任について | <承認> |
| *社会福祉法人永光会理事の推薦について | <承認> |
| *社会福祉法人永光会評議員会の開催について | <承認> |

表3 法人委員会・会議関連

| 会議・委員会名 | 会議内容 | 実施回数 |
|--------------|---|------|
| 法人運営会議 | BCPの検討・作成 中期計画の見直し 策定、コロナウイルス感染症対策、 その他各事業所に関する諸課題の検討 ・令和5年7月6日 拡大運営会議 狩野監事による会計勉強会実施 ・令和5年9月26日 拡大運営会議 令和5年度下期に向けての取組み | 14回 |
| 広報委員会 | 広報誌「永光会たより」の企画・検討・ 発行、ホームページの見直しなど | 11回 |
| 人事考課制度等検討委員会 | 人事考課制度の運用に関する事項の検 討・提案 | 3回 |

5. 沿革

| | | |
|---------------|--------|---|
| 1986 (昭和61) 年 | 6月18日 | 社会福祉法人永光会 法人認可 初代理事長に真下玄永就任 |
| | 7月2日 | 社会福祉法人永光会 法人成立 |
| 1987 (昭和62) 年 | 4月1日 | 特別養護老人ホーム永光荘開設 (定員50人) 短期入所 (定員6人) 初代永光荘施設長に飯塚春雄就任 |
| 1989 (平成 元) 年 | 2月1日 | 渋川デイサービスセンター開所 (渋川市委託事業) 永光荘40人増員 (定員90人) |
| | 6月30日 | 永光荘施設長 飯塚春雄退任 |
| | 7月1日 | 2代永光荘施設長に真下誠治就任 |
| 1991 (平成 3) 年 | 8月20日 | 機関紙「永光会たより」創刊 |
| 1992 (平成 4) 年 | 4月1日 | 真下施設長 群馬県デイサービスセンター連絡協議会初代会長に就任 (~H10. 3. 31) |
| 1993 (平成 5) 年 | 4月8日 | 初代理事長真下玄永逝去 |
| | 9月22日 | 2代理事長に梅澤次郎就任 |
| 1994 (平成 6) 年 | 1月17日 | 渋川デイサービスセンター長時間利用開始 |
| | 3月30日 | 渋川デイサービス開所5周年記念事業 ボランティア体験教室感想文集「またくるね」発行 |
| | 7月1日 | 渋川在宅介護支援センター永光荘開設 (渋川市委託事業) 永光荘ホームヘルプサービス事業開始 (渋川市委託事業) |
| 1995 (平成 7) 年 | 2月1日 | 老人短期入所定員変更6名増員 (定員12人) |
| | 11月14日 | 群馬県サービス評価委員会の評価受査 |
| 1997 (平成 9) 年 | 4月1日 | デイサービス名称変更「永光荘デイサービスセンター」 |
| | 7月19日 | 永光荘開所10周年記念式典開催 |
| 1998 (平成10) 年 | 4月1日 | 永光荘デイサービスセンターE型開所 (定員10人) |
| 1999 (平成11) 年 | 2月24日 | 永光荘デイサービスセンター10周年記念式典開催 |
| | 8月2日 | 福祉オンブズマン「はあとらんど」契約締結 |
| | 11月1日 | 在宅介護支援センター永光荘、県指定居宅介護支援事業者認可 |
| | 12月31日 | 永光荘施設長 真下誠治退任 |
| 2000 (平成12) 年 | 1月1日 | 3代永光荘施設長に梅澤良三就任 |
| | 3月10日 | 特別養護老人ホーム永光荘 (定員90人)、県指定介護老人福祉施設認可 永光荘ショートステイ (定員9人)、県指定居宅サービス事業者認可 永光荘デイサービスセンター (定員35人) 認可 永光荘デイサービスセンターE型 (定員10人) 認可 |

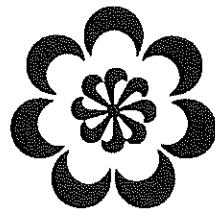
| | | | |
|---------------|--------|--|--|
| | | | 永光荘ホームヘルパーステーション認可 |
| 2000 (平成12) 年 | 5月31日 | | 理事長 梅澤次郎退任 |
| | 6月1日 | | 3代理事長に真下誠治就任 |
| 2001 (平成13) 年 | 1月22日 | | 評議員会設置 |
| 2002 (平成14) 年 | 1月31日 | | 2代理事長梅澤次郎逝去 |
| 2003 (平成15) 年 | 3月31日 | | 永光荘デイサービスセンターE型廃止 |
| | 4月1日 | | 永光荘デイサービスセンターE型を永光荘デイサービスセンターへ統合 (定員45人) |
| | 9月1日 | | 永光荘デイサービスセンター定員5人増員 (50人) |
| 2006 (平成18) 年 | 4月1日 | | 介護予防事業開始 (短期入所生活介護、通所介護 訪問介護) |
| 2007 (平成19) 年 | 12月19日 | | 渋川市特別養護老人ホーム清流の郷指定管理者に指定 (平成20年4月1日運営開始) |
| 2008 (平成20) 年 | 4月1日 | | 渋川市特別養護老人ホーム清流の郷運営開始 (定員: 特養50人、ショート6人、デイサービス25人) |
| | | | 初代清流の郷施設長に村上忠明就任 |
| | | | 特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター、在宅介護支援センター永光荘及び永光荘ホームヘルパーステーションの県指定の更新 (6年間) |
| 2010 (平成22) 年 | 2月28日 | | 永光荘ホームヘルパーステーション廃止 |
| | | | 多機能型居宅ケアグループとして統合 (永光荘ショートステイ・永光荘デイサービスセンター在宅介護支援センター永光荘) |
| 2011 (平成23) 年 | 12月22日 | | 優良民間社会福祉事業施設として天皇陛下より御下賜金拝受 |
| 2012 (平成24) 年 | 12月19日 | | 渋川市特別養護老人ホーム清流の郷第2期指定管理者受託 (運営期間: 平成25年4月1日～平成26年3月31日) |
| 2013 (平成25) 年 | 3月31日 | | 永光荘施設長 梅澤良三退任 |
| | 4月1日 | | 4代永光荘施設長に菊地文夫就任 |
| | | | 多機能型居宅ケアグループを廃止し、永光荘を管理部・特養部・居宅ケア部に編成。居宅介護支援部の中に居宅介護支援事業所永光荘と渋川市在宅介護支援センター永光荘を設置 |
| 2014 (平成26) 年 | 3月31日 | | 渋川市特別養護老人ホーム清流の郷第2期指定管理終了 |
| | | | 居宅介護支援事業所清流の郷休止 |
| | 4月1日 | | 渋川市より永光会へ特別養護老人ホーム清流の郷を譲渡 |
| | 7月10日 | | 渋川市と「災害時における要援護者の受入れに関する協定書」を締結 |

- 2015（平成27）年 9月24日 特別養護老人ホーム清流の郷 喀痰吸引等登録
研修機関の登録
- 9月30日 居宅介護支援事業所清流の郷廃止
- 2016（平成28）年 2月 4日 社会福祉法人永光会 自家用有償旅客運送者登録（福祉有償運送）
- 2016（平成28）年10月27日 特別養護老人ホーム永光荘 福祉サービス第三者評価受審（サービス評価センターはあとらんど）
- 2016（平成28）年11月30日 永光荘デイサービスセンター 福祉サービス第三者評価受審（サービス評価センターはあとらんど）
- 2017（平成29）年 2月 9日 社会福祉法人永光会評議員選任・解任委員会設置
- 2017（平成29）年 3月31日 永光荘施設長 菊地文夫退任
清流の郷施設長 村上忠明退任
- 4月 1日 5代永光荘施設長に村上忠明就任
2代清流の郷施設長に大谷義隆就任
- 7月12日 永光会創立30周年記念式典開催
- 11月 9日 特別養護老人ホーム清流の郷 福祉サービス第三者評価受審（サービス評価センターはあとらんど）
- 12月 1日 渋川市古巻地域包括支援センター運營業務受託（運営期間：平成30年4月1日～平成33年3月31日）
- 12月 7日 清流の郷デイサービスセンター 福祉サービス第三者評価受審（サービス評価センターはあとらんど）
- 2018（平成30）年 2月23日 渋川市古巻地域包括支援センター 指定介護予防支援事業所指定（平成30年4月1日事業開始）
- 3月14日 永光荘デイサービスセンター介護予防通所介護相当サービス（渋川市第1号通所事業）指定通知（指定年月日：平成30年4月1日）
- 29日 清流の郷デイサービスセンター介護予防通所介護相当サービス（渋川市第1号通所事業）指定通知（指定年月日：平成30年4月1日）
- 31日 渋川市在宅介護支援センター永光荘廃止
居宅介護支援事業所永光荘に名称変更4/1～
- 2018（平成30）年 4月 1日 渋川市古巻地域包括支援センター運営開始
永光荘ショートステイ介護予防短期入所生活介護の県指定の更新（2年間）
- 2020（令和 2）年 1月14日 特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ（介護予防含む）、特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ指定通知

(指定年月日：令和 2年4月1日)

- 2月19日 居宅介護支援事業所永光荘指定通知（指定年月日：令和 2年4月1日）
- 3月 2日 永光荘デイサービスセンター、清流の郷デイサービスセンター指定通知（指定年月日：令和 2年4月1日）
- 8月 7日 渋川市古巻地域包括支援センター運営委託第2期（令和3年度～5年度）受託内定
- 2021（令和 3）年 4月 1日 渋川市古巻地域包括支援センター第2期運営委託開始
- 12月15日 特別養護老人ホーム永光荘 福祉サービス第三者評価受審（サービス評価センターはあとらんど）
- 2022（令和 4）年 1月17日 永光荘デイサービスセンター 福祉サービス第三者評価受審（サービス評価センターはあとらんど）
- 12月19日 特別養護老人ホーム清流の郷 福祉サービス第三者評価受審（サービス評価センターはあとらんど）
- 2023（令和 5）年 2月21日 清流の郷デイサービスセンター 福祉サービス第三者評価受審（サービス評価センターはあとらんど）
- 2024（令和 6）年 3月31日 永光荘施設長 村上忠明退任

令和5年度
事業報告書



社会福祉法人 永光会

特別養護老人ホーム永光荘

管理部

特養部

居宅ケア部

・永光荘デイサービスセンター

・永光荘ショートステイ

もくじ

| | |
|-------------|------|
| 1. はじめに(総括) | … 1 |
| 2. 管理部 | … 3 |
| 1) 管理部 | … 3 |
| 2) 総務課 | … 3 |
| 3) 用務課 | … 4 |
| 3. 特養部 | … 10 |
| 1) 特養部 | … 10 |
| 2) 介護課 | … 11 |
| 3) 看護課 | … 11 |
| 4) 栄養課 | … 12 |
| 4. 居宅ケア部 | … 18 |
| 1) 居宅ケア部 | … 18 |
| 2) ショートステイ | … 19 |
| 3) デイサービス | … 20 |
| 4) 看護課 | … 21 |
| 5. 整備関係整備年表 | … 25 |

1. はじめに(総括)

令和5年度は、令和4年度に発生した特養部の新型コロナウイルス大規模クラスターとデイサービスセンターの休館によって受けた利用者、職員の心身への影響並びに稼働率へのダメージからの回復を中心に取組んだ。回復のためにもウィズコロナの生活の中で、感染症に配慮しつつ、入居者・利用者の「私の大切な時間」をピックアップし、利用者個々と家族の思い、居宅ケアに関しては家庭での生活状況も含めた情報収集を行い、個別支援に取り組んだ。

なお、感染症（新型コロナウイルス）については、令和5年1月の大規模クラスター発生を受け、感染症対策を取ってきたが、令和6年1月末から2月中旬にかけ、再びクラスターが発生してしまった。しかし、今回は前回の検証とその後の訓練を踏まえ、初動動作をはじめ迅速で効果的な対応ができたと考えている。それでも入居者25人、職員3人（令和5年1月発生時は入居者61人、職員18人）が罹患したが、ワクチン接種と薬の服薬制限が緩和されたことによる早期治療により、入院や重症化する方はなく収束することができた。

令和5年度運営方針の取組結果については、以下のとおりである。

1. サービスの質の向上を常に目指そう

①LIFEの活用については、フィードバックデータが想像していたようなものではなく、直接的な個別処遇の改善や業務内容の見直しに活用することはできなかった。令和6年度以降、LIFEの内容も見直す予定とのことなので、見直し内容を確認の上、活用していきたい。

②リスクマネジメントの強化について、感染症対策のために感染症BCPの見直しと研修、ガウンテクニックや感染症発生時におけるオムツ交換方法など、より具体的な訓練を実施し、発生時の迅速かつ的確な対応に備えた。また、災害発生時BCPに対しても机上訓練や避難所開設訓練を実施し、災害備蓄品の確保対して業者を交え整備した。その他、事故防止対策について、委員会を中心にヒヤリ・ハット報告書及び事故報告書から再発防止策を検討し周知対策をおこなった。

③人材育成については、各委員会や会議を通じ必要な知識、技術のブラッシュアップを行い、開催が義務付けられている虐待防止や接遇に関する研修を各部署内の会議と合わせ実施した。

④ICTの促進

インカムの活用については、現場の使用状況を踏まえ、会議において活用方法や不具合等について話し合い、有効活用できている。また、令和5年度特養部においては、ノート型パソコンを2台導入し記録やシステムの活用を実践、検証しながら進めている。さらに引き続き活用場面を広げるべく委員会や会議において議論していく。

ラインワークスの活用については、様々な情報共有ツールとして現場職員にも浸透し、タイムリーな情報発信と情報の周知が進み、ペーパーレス化（経費削減）に

も寄与している。今後は研修方法としても検討していきたい。

⑤介護ロボットの検討・導入について、「眠りスキャン」について試行導入を実施し着床時の入居者の行動やバイタル測定について、看護、介護職員が確認し、センサーとしての機能、安眠のためのデータ収集機能、バイタル異常の早期発見、早期対応機能、看取り期における状態変化の察知機能等に有効であることが確認できた。令和6年5月に本格導入の予定である。また、見守り支援システム内蔵型ベッドも5台導入となり、入居者のベッド周辺の事故防止に活用できている。

⑥SDGsの取組み確認と推進については、昨年同様「NPO法人世界の子どもにワクチンを」ペットボトルキャップによる寄付と日本財団チャリティー自販機寄付（子ども支援）を継続、実施した。また、全施設職員が法人の重点行動の各取組みを意識し実践に努めた。

2. 財政基盤の安定への取組み

①特養部：クラスターによる退居者を補充するため、新規受入れを計画的に行ったが、待機者が少ないため、病院を中心に看取り前提や医療依存度の高い方の受入れが中心となり、結果在所期間が短く、50人受け入れるも36人が退居となり、目標の稼働率には届かなかった。

ベッド稼働率 88.9%（目標：93.8%）

*特養部・ショートステイ 合算ベッド稼働率 91.1%（目標：95.8%）

②居宅ケア部：

*ショートステイは、特養のクラスターの影響で一時新規受入れを停止した影響でわずかであるが目標未達となった。

10.2人/日（目標：10.5人/日）

*デイサービスについては、特養部と同時期に利用者5人・職員3人の感染者が発生したため、5日間の休館を行った。休館明け後も利用控えがみられ正常に戻るのに2週間程度を要した。

介護：年間5,729人（目標：6,960人）

予防：実利用者数、年間98人（目標：96人）

デイサービスについては、利用者減少が大きい。新規利用者獲得に向け営業を更に強化する。また、利用者の欠席理由のうち、利用者の気分起因するものも見受けられるため、楽しく利用できるように働きかけをすすめる。

3. 地域における公益的な取組についてだが、新型コロナウイルスの5類移行に伴い「永光荘カフェ」の再開を検討したが、対象者及び受入れ側として、感染した場合の重症化リスクが懸念されるため、見合わせとなった。また、地域ニーズの把握への取組みについては、永光荘において経営協BCP策定モデル事業の一環として、県社協、渋川市危機管理室に参加してもらい、福祉避難所開設訓練を行った。

2. 管理部

1) 管理部

【年度目標①】

耐用年数を基に老朽化した備品・設備の洗い出し及びその更新に備えた劣化状況の把握と資料の作成

(評価)

将来の群馬県大規模修繕補助金申請および施設全体の老朽化に備えるために専門業者による建物および敷地の検査を実施した。施設東側（隣接民家との境界部分）の地盤の沈下が、建物の外壁や外庭の避難通路のひび割れなどの原因となっていることが判明し、対策を検討していくこととなった。

その他厨房内の備品を始めとする施設内備品（比較的高額なもの）の更新についても計画的に予算計上できるように引き続き検討する。

【年度目標②】

ウィズコロナの状況下における職員のメンタルヘルス面でのサポート及びそれに付随する情報の提供（年2回以上）

(評価)

ストレスチェックの結果、高ストレス者として産業医のアドバイスを必要とする職員はなかったが、コロナ対応等によりストレスを感じている者も多いと思われるため、引き続き注意を払っていきたい。また、コンプライアンスガイドラインを制定し、ハラスメントの防止等と呼び掛けた。外国籍職員の増加に対応するため、健康診断やその他の注意事項について、理解の一助となるようにラインワークスを通じて外国籍職員グループに情報を提供した。

【年度目標③】

施設内外でのスキルアップのための研修への参加

(評価)

9月に開催された全国老人福祉施設協議会関東ブロック研究総会分科会に参加し、他施設の取組み発表を見聞することができた。また、令和6年度介護報酬改定に関するセミナー等にも参加し、令和6年4月以降の介護報酬改定実施のための参考とすることができた。

2) 総務課

(1) 総務係

【年度目標①】

書類の電子化や施設内部書類の運用方法の改善（四半期に1件以上）

(評価)

特養部および居宅ケア部の時間外勤務命令簿に付随するチェック表の見直しを行い、命令簿とチェック表の相互確認が容易になった。また、試行中である居宅介護支援事業所のフレックス勤務表について時間外勤務の把握

もできるように改良し、業務効率の向上につながった。

【年度目標②】

試行中のフレックスタイム制度の効率的運用による時間外労働の削減
(評価)

事務職員全体の時間外勤務時間について、フレックスタイム制度の正式導入により、令和5年度は78時間(令和4年度147時間)となり、前年と比較し47%削減することができた。また、居宅介護支援事業所永光荘についても令和5年10月より試行を開始した。

(2) 経理係

【年度目標①】

会計処理においてミスゼロを目指す。

(評価)

係内で月次決算後に業務の振り返りを行い、発生したミスなどを注意ポイントとして記録しミスの再発防止につなげることができた。(補正)予算積算時においても、同様な取組みを行い、次年度はミスゼロを目指したい。

【年度目標②】

月次決算の早期化で空き時間をつくり、その時間で資格取得や新たな知識を身に付ける等、自己実現を目指す。

(評価)

月次決算を毎月20日前後に完了することができており、月次決算を23日までに完了するという令和4年度の目標よりも更に早期に月次決算業務を終わらせることができた。一方、事務職員向けの研修が少ない中で、令和5年9月13日～14日に高崎で開催された関東ブロック老人福祉施設研究総会の分科会に参加し、他施設の取組みを学ぶ機会を得ることができた。

3) 用務課

【年度目標①】

機器のメンテナンスを通じて利用者の健康と安全に寄与する。

(評価)

設備管理予定表に従い、設備機器の保守管理を実施した。特に利用者への影響が高いエアコン室内機のフィルター清掃や室外機の簡易検査を年4回実施し、冷暖房効率の維持を図るとともに、比較的人的要因等によって故障することが多い大型乾燥機や洗濯機の保守管理と職員への使用上の注意喚起を行った。

【年度目標②】

デマンド上限129kwhを目標とし、適切な電気使用による省エネ推進。

(評価)

暖房を含む電気使用量が増加する冬季は、特にデマンドデータに注意し目標のデマンド上限129kw以下に抑えたかったが、残念ながら、最大需要電力が132kwhを記録してしまった。機器の設定を予め125kwh

に設定しておくなど早めの回避策が取れるように検討したい。

【年度目標③】

用務課スローガン：「エール」。

(評価)

修理等を依頼しやすい雰囲気をめざし、気付いた箇所は早めの修理を心掛けた。

4) 職員健康診断等状況

1. 健康診断状況

令和5年 6月20日～26日 78人 (全体職員検診)

令和5年12月 1日～令和6年1月31日 34人 (夜勤職員検診)

2. 新型コロナウイルスワクチン接種

6回目 令和5年 6月9日～23日 60人接種

7回目 令和5年10月13日～27日 53人接種

3. インフルエンザ予防接種状況

令和5年11月6日～27日 72人接種

4. ストレスチェック実施状況

令和 5年11月24日～30日 70人受検

5) 施設不在者投票 (特別養護老人ホーム利用者)

1. 群馬県知事選挙

令和5年 7月20日 不在者投票 27人

6) 付表

1. 施設整備等実施状況

表 1

| 項 目 | 内 容 | 金額 | 購入日・実施日 |
|--------|-------------------------------------|----------|------------------|
| 施設備品購入 | ゴミ収納用物置 | 236 千円 | 令和 6 年 3 月 31 日 |
| | 介護ベッド(離床センサー内蔵型) 7台(特養5台、ショート2台) | 2,802 千円 | 令和 6 年 3 月 31 日 |
| | デイサービスドラム式洗濯機 | 268 千円 | 令和 5 年 9 月 30 日 |
| | デイサービス車いす | 136 千円 | 令和 6 年 1 月 31 日 |
| 施設備品修理 | 個室トイレ手すり取付 | 119 千円 | 令和 6 年 3 月 31 日 |
| | 大型洗濯機修理 | 108 千円 | 令和 5 年 11 月 30 日 |

2. 施設外研修と会議

表 2

出席件数 (延べ人数)

| 職 種 | 部会・定例会・会議 | 一般研修 | 県外研修 |
|-----------|-------------|-------------|---------|
| 施設長 | 3 0 (3 0) | 1 3 (1 3) | 0 (0) |
| 副施設長 | 2 (2) | 1 8 (1 8) | 2 (2) |
| 特養介護支援専門員 | 0 (0) | 5 (5) | 0 (0) |
| 特養介護職 | 0 (0) | 2 2 (2 7) | 0 (0) |
| 特養看護職 | 0 (0) | 2 (2) | 0 (0) |
| 特養栄養職 | 0 (0) | 2 (2) | 0 (0) |
| 特養事務職 | 5 (5) | 2 8 (3 4) | 1 (1) |
| 居宅ケア部長 | 1 (1) | 6 (6) | 0 (0) |
| 居宅ケア介護職 | 0 (0) | 1 3 (1 3) | 0 (0) |
| 居宅ケア看護職 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |

3. 会議及び委員会の実施状況

表 3

| 会議名 | 実施回数 | 出席数 | 参加者 | 会議の内容 |
|--------------|------|-----|---------------------------|-------------------------------------|
| 部長会議 | 12回 | 5人 | 施設長、副施設長、事務長、部長 | 各部門懸案事項の検討 方針決定、月次収支報告 |
| 課長会議 | 12回 | 11人 | 施設長、副施設長、事務長、部長 副部長、課長 | 各課懸案事項の審議 方針の徹底 |
| 衛生委員会 | 12回 | 12人 | 施設長、委員、嘱託医 | 施設の安全衛生に関すること |
| 防災管理委員会 | 8回 | 7人 | 施設長、委員 | 施設防災計画、訓練、安全管理の企画点検など |
| 食支援委員会 | 12回 | 9人 | 施設長、副施設長、部長、管理栄養士、委員、給食業者 | 給食に関する事項審議 行事食、処遇改善策 |
| 行事委員会 | 11回 | 7人 | 施設長、委員 | 行事の企画、反省 |
| 感染症対策委員会 | 12回 | 11人 | 施設長、副施設長、事務長、部長 副部長、課長 | 新型コロナウイルスを主とした感染症対策の検討など |
| 虐待防止委員会 | 12回 | 11人 | 施設長、副施設長、事務長、部長 副部長、課長 | 虐待に関する懸案事項等の確認及び検討など |
| 身体拘束適正化委員会 | 12回 | 11人 | 施設長、副施設長、事務長、部長 副部長、課長 | 緊急的に身体拘束を実施する場合の留意点及び拘束解除に向けた検討など |
| リスクマネジメント委員会 | 12回 | 11人 | 施設長、副施設長、事務長、部長 副部長、課長 | 事故発生及び事故再発予防策の検討など |
| 入所等検討委員会 | 12回 | 11人 | 施設長、副施設長、事務長、部長 副部長、課長 | 入所待機者の動向確認とグループ分けその他入所決定についての総合的な検討 |
| 永光荘しんぶん委員会 | 4回 | 5人 | 委員 | 永光荘しんぶんの企画検討 編集、反省 |

4. 職員の配置状況

表 4

| | 特別養護老人ホーム | | | デイサービス | | |
|---------|-----------|------------|------------|----------|------------|------------|
| | 人数 | 年齢 (平均) | 勤続 (平均) | 人数 | 年齢 (平均) | 勤続 (平均) |
| 施設長 | 1 | 63 | 37 | (1) | | |
| 事務員 | 5 | 41 | 10 | (5) | | |
| 生活相談員 | 2 | 50 | 24 | 1 (2) | 45 | 22 |
| 介護支援専門員 | 1 | 63 | 23 | | | |
| 介護職員 | 28 | 33 | 8 | 9 | 45 | 14 |
| （非常勤） | 11 | 43 | 5 | 1 | 39 | 6 |
| 看護職員 | 4 | 56 | 10 | 2 | 49 | 4 |
| （非常勤） | 3 | 68 | 12 | 2 | 55 | 4 |
| 機能訓練指導員 | (1) | | | (3) | | |
| （非常勤） | | | | (1) | | |
| 管理栄養士 | 1 | 28 | 5 | (1) | | |
| 医師 | | | | | | |
| （非常勤） | (5) | | | | | |
| 用務職員 | 1 | 64 | 37 | (1) | | |
| （非常勤） | 1 | 62 | 2 | (1) | | |
| 合計 常勤 | 43 | 39 | 12 | 12 | 46 | 13 |
| （非常勤） | 15 | 48 | 6 | 3 | 47 | 5 |

() は兼務

令和6年3月31日現在

- ・ デイサービスの生活相談員 3 人は介護職員が兼務
- ・ 永光荘・デイサービスの機能訓練指導員は看護職員が兼務
- ・ 兼務者は合計から除外 年齢、勤続の合計は平均

5. 職員の資格取得状況

表5

| | 介護福祉士 | 介護支援専門員 | 看護師 | 准看護師 | 管理栄養士 | 栄養士 | (喀痰吸引)従事者 認定特定行為業務 | 介護職員初任者 研修 | 認知症介護実践者 研修 | 防火管理者 | 衛生責任者 | 危険物取扱者 |
|---------|-------|----------|-----|------|-------|-----|-----------------------|---------------|----------------|-------|-------|--------|
| (特養) | | | | | | | | | | | | |
| 生活相談員 | 1 | 1 | | | | | | | | | | |
| 介護支援専門員 | 1 | 1 | | | | | 1 | | | | | |
| 介護職員 | 27 | 2 (1) | | | | 1 | 9 | 6 | 1 | 1 | | |
| 看護職員 | | 1 | 4 | 6 | | | | | | | | |
| 栄養士 | | | | | 1 | | | | | | | |
| 事務職員 | | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| 用務職員 | | | | | | | | | | 1 | | |
| (ショート) | | | | | | | | | | | | |
| 生活相談員 | 1 | | | | | | 1 | | 1 | | | |
| 介護職員 | 3 | | | | | | 1 | 1 | 2 | | | |
| (デイ) | | | | | | | | | | | | |
| 生活相談員 | 1 | 1 | | | | | | | 1 | | | |
| 介護職員 | 9 | | | | | | 4 | 1 | 2 | 2 | | |
| 看護職員 | | | 1 | 4 | | | | | | | | |
| 合計 | 42 | 6 | 6 | 10 | 1 | 1 | 16 | 8 | 7 | 4 | 2 | 2 |
| 前年度合計 | 42 | 6 | 6 | 10 | 1 | 1 | 16 | 8 | 7 | 4 | 2 | 2 |

・重複資格取得者あり。 非常勤職員含む。 令和6年3月31日現在

・() は資格者所有者数のうち令和5年度試験合格者数を示す。

3. 特養部

1) 特養部

【年度目標①】

93.8%以上のベッド稼働率を維持する。

(評価)

令和5年4月に75.6%でスタートし、毎週1人から2人のペースで新規受入れを行ったが退居者の数も多く、上期9月末時点で90.6%とわずかに90%を超えた程度であった。その後12月下旬から1月中旬にかけて93%を超える数字を確保していたが、1月末から2月下旬にかけてクラスターが発生してしまい受入れができなくなってしまった。令和5年度のベッド稼働率としては88.9%に留まったが、3月末時点で再び93%台に回復している。

【年度目標②】

感染症対策を徹底した上で、入居者個々の生活の質の維持・向上を目指す。

(評価)

感染症対策として、感染症分類第5類に移行し世の中の感染症対策や意識が弱まりつつあるが、高齢者福祉施設の職員として自分が感染しているつもりで、感染症を「持ち込まないために」「拡げないために」と標準予防策を実践した。また、令和4年度の大規模クラスターの反省を生かすため、感染症まん延時のオムツ交換の仕方やガウンテクニックなどの訓練を行い、実際のクラスター発生時には生かすことができた。しかし、個々の生活の質の向上に対しては、PTや各委員会が中心となり、機能回復のための取り組みは実践したものの、外出を伴う活動、行事は縮小することとなってしまった。

【年度目標③】

LIFEを活用し、PDCAサイクルによりケアの質の向上を目指す。また、LIFE以外にも介護ロボットの有効性について、検討・導入を進める。

(評価)

LIFEについては、入居者個々のADL状態や施設入居者全体の傾向について、全国との比較や6カ月前との比較はフィードバックされるものの、具体的に個々の処遇改善や業務改善に活用できるほどのものではなかった。(令和6年度に見直し予定)また、介護ロボット関連については、オムツセンサーや「眠りスキャン」を試験導入した(令和6年5月正式導入)。なお、データ入力やモニター確認のため、ノート型パソコンを新たに2台導入し活用している。

【年度目標④】

SDGsに対して、ICT化を活用し、働きやすい環境を整えるとともに、節電、節水など「もったいない」を意識し節約に努める。

(評価)

ラインワークスやインカム、ノート型パソコンを活用することで、記録や情報共有がスムーズに行え業務省力につながっている。また、節水、節電についても職員個々が意識し節約に努めた。

2) 介護課

【年度目標①】

「入居者個々の大切な時間」の提供と働きやすい環境を整えることを目的に業務の見直しを行い、入居者の生活や思いを発端としたケアを提供していく。また、入居者が安全かつ安心して生活できるようにリスクマネジメントに取り組む。

(評価)

I C T化に向け記録検討委員会を設置し機器の検討を行い、ノート型パソコン2台を購入し管理責任者を決定、その後周辺物品を揃え、「ほのぼのケアシステム」の活用についての相談会を企画し各課の担当者が説明とレクチャーを受け、情報の共有や管理がスムーズになることを実感し、タブレットの導入や活用方法など具体的に検討した。また、インカムやラインワークスを効果的に使用し、様々な意見集約や速やかな情報伝達を行うことができた。排泄への取り組みでは、排泄委員会を中心に優先順位をつけながら常時尿測を行っている。食事や入浴など数ある介護場面において、まずは排泄の個別化から職員と入居者の意識を変えていくべく取り組んでいる。

会議内容の充実を図る取り組みとして、特養部全体会議において毎回グループワークを行った。職員自身の食事やお風呂などに対する個々の価値観やライフスタイルを認め合い、入居者へのケアの提供や施設生活の不自由さの理解につなげている。

【年度目標②】

将来を見据えた組織の成長と環境を整える。

(評価)

新型コロナウイルス濃厚接触者発生時に、隔離対応を行ったが入居者の発症はなく事なきを得た。しかし、令和6年1月末から2月下旬掛けてクラスターが発生してしまった。昨年のクラスターや濃厚接触者発生時の隔離対応や感染物品の使用訓練を活かし、必要物品の配備や居室内の配置、職員の動線確保などの初動対応が速やかにできた。対応職員も初動からフル装備で対応にあたり、職員間の感染を3人に留めることができた。職員が罹患してしまうと現場のシフトがタイトとなり、感染の更なる拡散につながってしまうため、蔓延予防には重要なことだと改めて気付いた。さらに、日頃から職員の感染症対応における役割分担を明確にしていたことで、上長が不在でも混乱せずに乗り切ることができた。また、薬の効果は大きく、入院等重症のなる方はいなかった。

組織の成長については、現場職員との個人面談で個々の意向調査をした上でモチベーションアップとチーム力の向上のために、外部研修への参加促進と内部研修を企画実施した。

3) 看護課

【年度目標①】

新型コロナウイルスを中心とした感染症対策が円滑かつ徹底されるよう、配置医師、関係機関、他職種と連携し、永光荘における医療の専門職として中心

的な役割を果たす。また、入居者だけでなく、職員も合わせた健康管理を徹底することで、入居者が安心して生活できるよう支援する。

(評価)

春・秋の新型コロナウイルスワクチン接種を行政、医師と連携し実施した。また、地域の感染症状況の把握や新規受入れ時の隔離対応、職員の健康管理や標準予防策を徹底することで「持ち込まないために」、職員、利用者の発熱など感染が疑われる人に対して、抗原検査を積極的に実施し、早期発見と早期対応し「拡げないために」対応に努めた。しかし、冬期にクラスターが発生してしまっただが、今回は服薬方法が改善され重症化する入居者は出なかった。

【年度目標②】

入居者個々の大切な時間が確立されるよう看護職員の立場として、委員会活動やサービス担当者会議において、他職種と協働し役割を果たす。また、様々なニーズに応えられるように知識、技術の向上のため、外部研修に参加し、必要な内部研修を企画、実行する。

(評価)

所属している各委員会、会議に参加し、他職種との連携を図った。また、内部研修として、喀痰吸引実践研修を行ったが、新型コロナウイルスクラスターの影響もあり、一部延期となってしまった。外部研修については、可能な限り参加し、新たな技術や知識を得ることができた。

4) 栄養課

【年度目標①】

LIFEを活用し、個々の栄養マネジメントに反映させる。また、食事場面の観察や嗜好調査を行い、個々の食事、栄養状態を把握し、食における大切な時間を過ごせるよう支援する。

(評価)

LIFEに関しては、個々のデータ提出を行うことで情報収集を行うことはできたが、フィードバックデータの活用については個々の評価や活用までは至らなかった。なお、個々の食事や栄養状態の把握については、食事場면을観察し会話が可能な入居者には個別に聞き取りを行い、見直しや改善を行うことができた。

【年度目標②】

災害・感染症BCPに対する備えとSDGsへの取組みを関連業者と連携して整備・実施する。

(評価)

BCPに基づいた食品の備蓄や対応については、関連業者と委員会会議や必要時に話し合いを行った。結果、備蓄に関しては業者の負担により3日分の非常食を確保することができることとなった。

【年度目標③】

衛生管理の徹底を図る。(食中毒・感染症予防)

(評価)

衛生記録簿や検収記録簿は関連業者と連携しマニュアルに沿って記録した。食中毒や感染症予防についても衛生管理マニュアルに沿って徹底を図った。

5) リスクマネジメント

事故発生を少しでも防ぐため、事故・ヒヤリハット報告書をもとに現場職員により、原因と再発防止策を検討し実行した。また、事故防止委員会を中心に施設内整備と設備点検を定期的に行い、サービス担当者会議において改善点を挙げ、再発防止に対処した。

また、介護ロボット等の活用については、見守り支援システム内臓ベッドの導入により、滑落や転落防止、徘徊者対応として、使用適正者を選定し事故発生予防として実践している。なお、令和6年度導入予定であった「眠りスキャン」については、試験導入は行ったものの生産が間に合わず、令和6年度に本格導入となってしまった。導入後は個別データを活用し、夜間を中心としたベッド上での状態を分析し、事故防止と看取り介護の充実につなげたい。

6) オンブズマン報告

令和5年度も新型コロナウイルスは5類に移行したが、施設としては感染症予防のため、閉鎖的な状況が続いた。そんな中、入居者の要望の聞き取り及び苦情解決システムの一環としてNPO法人「はあとらんど」にオンブズマンを依頼し、処遇改善につなげた。新メンバーが1人追加され、新たな視点でオンブズマンとしての知識と経験から気づいた点を巡回終了後に伺い検証した上で後日書面での報告を受け、各部署で内容確認し、検討・解決を図った。

7) 付表

表1 入退居者状況

入退居者数 () は前年度人数

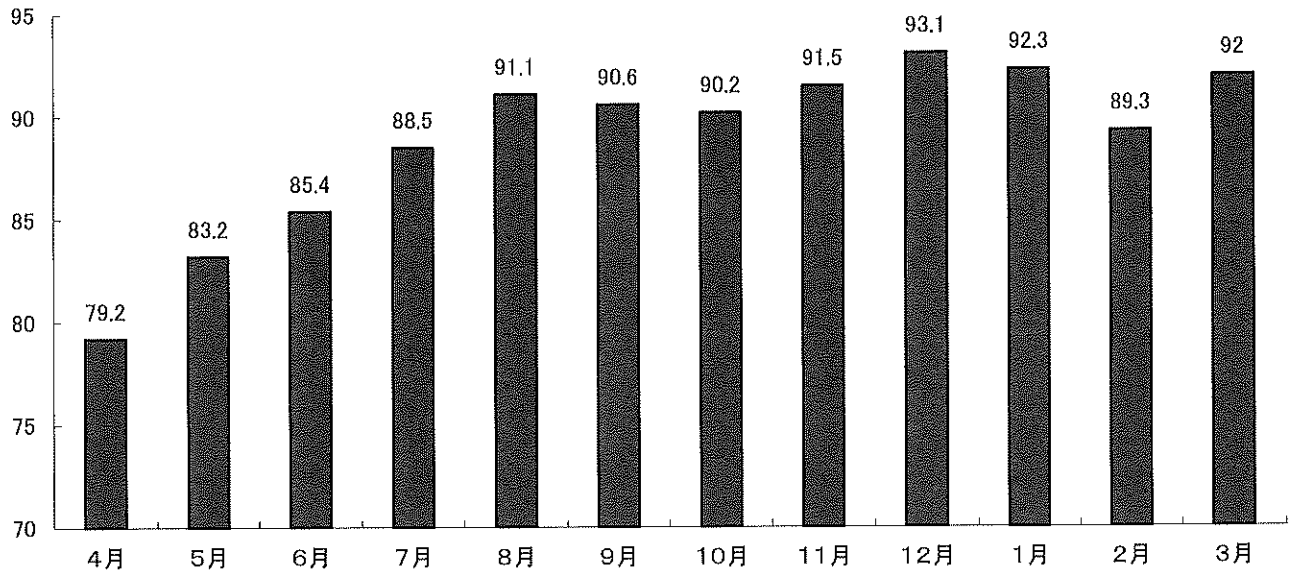
| | 入居者数 | 退居者数 |
|----|---------|---------|
| 男 | 15人(9) | 10人(10) |
| 女 | 35人(20) | 26人(36) |
| 合計 | 50人(29) | 36人(46) |

表2 退居者状況内訳

() は前年度人数

| | 死亡(看取) | 死亡(病院) | 他施設 | 医療機関 |
|----|---------|--------|-------|-------|
| 男 | 7人(7) | 2人(2) | 0人(0) | 1人(1) |
| 女 | 19人(28) | 4人(3) | 1人(0) | 2人(5) |
| 合計 | 26人(35) | 6人(5) | 1人(0) | 3人(6) |

表3 ベッド稼働率（月別推移 単位：％）



令和5年度累計・・・88.9％

表4 実習受入状況

| 実習校名 | 人数 | 受入期間 |
|---------------|----|-------------------|
| 群馬パース大学福祉専門学校 | 3 | 令和5年 6月 6日～ 6月30日 |
| | 1 | 令和5年 8月21日～ 9月 1日 |
| | 3 | 令和5年 9月12日～10月20日 |
| | 1 | 令和5年10月23日～11月10日 |
| 吾妻中央高等学校 | 4 | 令和5年 7月24日～ 7月26日 |
| | 2 | 令和5年10月12日～12月14日 |
| | 1 | 令和5年12月18日・12月21日 |
| | 2 | 令和6年 3月 7日～ 3月29日 |
| 渋川青翠高等学校 | 3 | 令和5年 7月25日・ 7月26日 |
| 前橋特別支援学校 | 1 | 令和5年 9月 4日～ 9月29日 |

※新型コロナウイルス蔓延に伴い、実習予定が1件中止となった。

表5 外部研修参加状況

| 研修名 | 形式 | 参加人数 | 研修期間 |
|--------------------------|-----|------|------------|
| 渋川摂食嚥下研究会 | WEB | 3 | 令和5年 4月 4日 |
| 福祉スキルアップ研修 | WEB | 1 | 令和5年 5月 1日 |
| 在宅ケアネット渋川 講演会 | WEB | 1 | 令和5年 6月 7日 |
| 在宅ケアネット渋川 講演会 | 会場 | 2 | 令和5年 9月 6日 |
| 渋川広域圏の病院と介護老人福祉施設との情報交換会 | WEB | 1 | 令和5年 9月 8日 |

| | | | |
|-----------------------------|-----|---|---------------------|
| 高齢者住まい看取り研修 | 会場 | 1 | 令和5年 9月10日 |
| 渋川摂食嚥下研究会 | 会場 | 2 | 令和5年10月 3日 |
| 福祉避難所開設訓練 | 会場 | 4 | 令和5年10月23日 |
| 介護福祉士実習指導者講習会 | 会場 | 1 | 令和5年12月10日 |
| 感染症対策研修会 | 会場 | 1 | 令和5年12月14日 |
| 介護福祉士実習指導者講習会 | 会場 | 1 | 令和6年 1月21日 |
| 日本福祉施設士会関東甲信越 静岡ブロックセミナー | 会場 | 1 | 令和6年 2月 8日 2月 9日 |
| ほのぼのシステムWEB研修 | WEB | 2 | 令和6年 2月13日 |
| 県老協生活相談員研究部会 | WEB | 1 | 令和6年 2月11日 |
| 新人社員研修会 | 会場 | 2 | 令和6年 2月18・19日 |

※前年度と比較して、WEB研修から会場参加の研修が大幅に増加した。

8) 会議、委員会実施状況

| 会議名 | 年間実施回数 | 平均出席 | 参加職種 | 会議の内容 |
|----------------|--------|------|---|---|
| 特養部全体会議 | 10回 | 26人 | 施設長 生活相談員 施設ケアマネ 介護職員 看護職員 管理栄養士 | 懸案事項審議、コロナウイルス対策の周知・徹底、業務等の報告、連絡など |
| サービス担当者会議 | 12回 | 7人 | 施設長 生活相談員 施設ケアマネ 介護職員 管理栄養士 看護職員 | 利用者ケアプランにおけるサービス内容の検討、状況確認、モニタリングなど |
| 事故防止委員会 | 12回 | 7人 | 施設長 生活相談員 施設ケアマネ 介護職員 管理栄養士 看護職員 | リスクマネジメント作業委員会における現場でのリスクを報告。事故発生及び事故再発予防策の検討など |
| リスクマネジメント作業委員会 | 10回 | 4人 | 介護職員 | 事故分析、環境整備、センサー使用状況の把握、マニュアル見直し、職員教育 |
| 入所等検討委員会 | 12回 | 13人 | 評議員 施設長 事務長 生活相談員 | 入所待機者の動向確認とグループ分け及び入所決定についての総合的な検討など |

| | | | | |
|------------|-----|-----|---|---|
| | | | 施設ケアマネ 介護職員 看護職員 管理栄養士 地域包括職員 居宅ケア相談員 居宅ケア看護職員 居宅介護支援相談員 | |
| 虐待防止検討委員会 | 12回 | 13人 | 評議員 施設長 事務長 生活相談員 施設ケアマネ 介護職員 看護職員 管理栄養士 地域包括職員 居宅ケア相談員 居宅ケア看護職員 居宅介護支援相談員 | 利用者の人権擁護に関する理解と周知、虐待発生防止のための研修計画及び現場での虐待に関する懸案事項等確認及び検討など |
| 感染症予防対策委員会 | 10回 | 8人 | 施設長 生活相談員 介護職員 看護職員 管理栄養士 委託業者社員 | 新型コロナウイルスを主とした感染症対策の検討及び発生時の対処方法の統一、感染症蔓延時におけるBCPの検討・周知など |
| 身体拘束適正化委員会 | 12回 | 7人 | 施設長 生活相談員 施設ケアマネ 介護職員 管理栄養士 看護職員 | 身体拘束に対して、緊急やむを得ず実施する場合の留意点及び拘束解除に向けた検討の実施など |

9) 行事報告

ご利用者の生活のリズムを構築するため、下記の季節行事を実施した。

表6-1 年間行事

| 行事名 | 実施日 | 内容 |
|--------|---------------|---|
| 花見 | 3月下旬～ 4月上旬 | お花見を実施し、飲み物の提供を行った。 |
| 慰問 | 8月27日 | 小野上太鼓保存会に来荘して頂き、慰問の実施。 |
| 敬老会 | 9月16日 | 渋川女子高等学校茶道部に来荘していただき、お茶会実施と慶祝状贈呈式の実施。 |
| クリスマス会 | 12月17日 | 渋川第一保育所園児から預かったプレゼントを利用者へ渡す。渋川第一保育所園児へプレゼントを渡す。 |
| 餅つき | 12月28日 | 利用者と一緒に鏡餅作りを実施。 |
| 新年の挨拶 | 1月1日 | 新年の挨拶をし、正月らしい食事の提供。 |

表6-2 定例行事

| 行事名 | 実施日 | 内容 |
|--------|-------|-----------------------|
| 誕生会 | 12回 | 毎月1日に祝い食（お赤飯）の提供を行った。 |
| お盆供養 | 8月14日 | 真光寺の副住職を招き、実施。 |
| 秋の彼岸回向 | 9月21日 | 〃 |
| 春の彼岸回向 | 3月18日 | 〃 |

4. 居宅ケア部

1) 居宅ケア部

【年度目標①】

個別ケアの充実「環境の整備、ケアの模索、業務の見直し、職員の負担軽減及び働きやすい職場環境づくり」

(評価)

委員会の体制を変更し、食事・排泄・入浴とケア項目ごとに役割分担し、個別情報を発信する仕組みをつくり職員個々の負担を軽減することができた。また、人材を育成するために、業務の見直しに取組み、結果、新規職員2人は定着することができた。

- ①食事係は、中心となって取組んでいたポジショニングをテーマに、老施協関東ブロック研究大会にて事例発表を行った。日常的には、対象者の重度化が進み、処遇の改善は難しかった。
- ②排泄係は、基本に立ち返りユニ・チャームのアドバイザーを招き勉強会を行った。
- ③入浴係は、安全な入浴について個別の注意点が整理され職員間で情報を共有することができた。

【年度目標②】

L I F Eのフィードバックについて

(評価)

毎月の更新入力を係長が継続し、年度末にフィードバックを受けることが出来た。フィードバックについては、事業所の特性を示すデータとなる。

| | 永光荘デイ | 全 国 |
|-------------------------|-------|-------|
| ①障害高齢者の日常生活自立度 (B 1以上) | 24.9% | 16.1% |
| ②認知症高齢者の日常生活自立度 (Ⅲ a以上) | 41.7% | 17.3% |
| ③ADL評価合計点 (85点以上) | 20.8% | 47.8% |

①②については、重度者の割合を示し、③は自立度の高い方の割合を示す。

特養併設事業所ということもあり、全国統計と比較して、重度者の割合が大きい。この結果は、重度者の受入れができるという事業所の特色として発信していきたい。

【年度目標③】

標準予防策の徹底と地域の感染状況に応じた利用者・家族への注意喚起や協力要請。

(評価)

新型コロナウイルスについては、年間通して利用者や職員及び関係者の発症情報があった。特に、5月、8月、1月の連休明けに感染者は増加した。事前に文書による説明ができていたため、利用中の家族による迎えや受診対応はスムーズに協力を得られた。自宅療養中に体調が悪化し、入院や施設入所となり、結果として利用が終了するケースがあった。

【年度目標④】

居宅ケア部独自のSDGs

(評価)

- ①不要なアイドリングを減らすため、運転10分前暖気を実施した。
- ②NDソフトウェアを招き、効率的なシステム使用方法・操作方法のレクチャーを受けた。
- ③空調機の効率的な使用(省エネ)に向けたデータ収集は着手できなかった。
- ④ペットボトルキャップ回収をすすめ、寄付を行った。
- ⑤職員用洗濯機の故障原因を追究し、ゴミフィルターの使用により解決することができた。購入品の取扱いについて写真付注意事項を発信し、適切に使用できている。

2) ショートステイ

【年度目標①】

ベッド稼働率117%(1日10.5人)

デイサービス・ショートステイ一体型の事業所の特色を発信し、利用者開拓をすすめ基盤となるデイサービス利用者を増やしショートステイの実人数を確保する。

(評価)

感染症へ警戒しながらの1年となったが、結果的に366日開館し、昨年同様の新規契約を締結出来た。6月から1月までは目標を達成できる水準を維持していたが年明けから感染症陽性者が周辺で増加し2月前半はクラスターを回避するため人数を制限して受け入れ、この間は特養部への感染を回避するため家族へ同意の下別棟のデイフロアでの夜間対応を行った。この間、利用者・家族の感染が数名ではあったが広がり、状態低下から在宅継続困難となり利用終了となる事もあった。結果2月の稼働率は100%を下回り、年度稼働率も113.3%に留まった。

【年度目標②】

安全で安心して過ごせる環境の整備

利用者のライフスタイル情報を収集し、居室空間・就寝環境・排泄環境を再現する。また、日中はデイサービスのレク活動や機能訓練に参加することで、夜間の睡眠につなげる。夜間帯の動きやすさを追求し、ヒヤリ・ハット情報を整理し見直していく。

(評価)

低床ベッドの購入と個室トイレ内の手摺りの改修を行い、安全に過ごせる環境を整えた。夜間事故件数は4件と少なく抑えられたが更に本人の状態変化と予測を踏まえて対策を取っていく必要がある。
日中の活動に参加することで機能維持と夜間の睡眠へつなげられ、生活リズムの改善を図った。

【年度目標③】

感染症対策の徹底

家族構成、仕事、学校や外出頻度の情報のやりとりが出来る関係を築き、家族情報を整理する。特に盆・正月等の家族の集まる時期には慎重に体調観察をし、利用の受入れの判断を行う。また、事前に利用中の感染リスク、陽性疑い時の隔離対応、陽性時の対応について説明しておく。

(評価)

家族の感染症に対する意識も高かったが、症状が出てしまうと急遽の予定変更を行わなければならないことで家族側も施設側も混乱してしまう状況が出てしまった。
家族・利用者への感染情報の発信方法が整わない状況だったが、理解と協力をしていただけている事が感じとれた。やはり、法事等の人が集まる環境でのリスクは高いことが再確認出来た。

3) デイサービス

【年度目標①】

年間延べ利用者数6,960人を目指す。

(評価)

年間実績利用者数は5,749人。目標に対して83%と大幅に減少した。要因とすると、毎月利用者2人が利用休止(施設入居・死去)となったことや、新規を獲得するも利用が定着しなかった(サービス満足度)等が挙げられる。また、利用者及び家族、職員関係者の陽性判明後、予防対策として、一定期間利用制限したことも影響した。対策として、12月に「利用者を増やすために」をテーマに職員で意見を出し合い、丁寧な接遇やリハビリを強みにしていこうという意見が出た。次年度につなげていきたい。

【年度目標②】

介護・看護のチームとしての情報処理機能を高め成果を上げる。

LIFEの有効活用とPDCAサイクルの実践。

(評価)

月例で、各委員会から挙げた個別情報を、係長会議で集約し、全体会議で共有した。分担でLIFE更新データの入力作業を実施できたが、重度者の情報量や感染症による制限により、PDCAサイクルを円滑に機能させることができなかった。

【年度目標③】

1手技、1手洗いを基本として、検温・手指消毒と手洗い・うがい・パーテーション対応・消毒作業等、感染症予防対策の徹底と発生時の段階的シミュレーションの実践。

(評価)

5月、8月に利用者及び職員が感染。検証により、接触者のリストアップを行い、経過観察を実施、感染の拡大なく解除することができた。1月の発生時

は、地域の感染流行もあり、ルート不明な感染が発生し、特養部への影響も生じた。結果、1月中旬から3月上旬まで、経過観察期間として費やす形となった。あらためて、「感染症リスクが高いサービス」であることを認識し、基本に立ち返り、「持ち込まない」「持ち帰らない」「拡げない」予防対策を続けていきたい。

4) 看護課

【年度目標①】

感染症対策の指導と感染症マニュアルの更新等、感染症予防対策の中心的な役割を果たす。

(評価)

年度初めより、手洗い・うがいの励行と物品の在庫管理等を行い、全体会議では、ガウンテクニックの指導を行った。5月、8月の発生時には、抗原検査を積極的に実施し、感染拡大を防ぐことができた。1月は、感染疑い者が複数生じたことで、冷静な判断ができない場面があった。発熱時や陽性判明時には、職員に対する感染症対策の徹底や、家族に対する連絡、療養上の注意事項を丁寧に伝達していきたい。

【年度目標②】

介護課と連携・協働し、認知症及び身体的重度者のケアを実践する。

(評価)

L I F Eの仕組みを理解し、介護課と一緒にシステム入力や個別処遇、リハビリりに取り組んだ。また、毎月看護介護間で利用者の変化に合わせた対応策の協議を行った。特に、褥瘡やストマ等重度者の状態変化を共有していきたい。

5) 居宅ケア部活動状況

①鬼石式筋力トレーニング

実利用者数 12人 開催回数 98回

対象者の身体機能の数値上昇が確認できた。上半期対象者が減少したため、段階的にメニューを検討し、昨年より参加人数、開催回数は増えた。

②年間行事

渋川女子高等学校茶道部によるお茶会・小野上温泉太鼓保存会の慰問や餅つき（鏡餅づくり）に参加。その他、お花見や夏のスイカ割りやお正月のかるた大会を実施した。また、イベント写真の掲示、お雛様、兜、クリスマス、お正月等、季節に合わせてホール内を装飾した。

6) 附表

(1) 表1 居宅ケア部 新規利用者数

①ショートステイ

(単位：人)

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|
| R5年度 | 0 | 3 | 2 | 3 | 3 | 1 | 1 | 3 | 2 | 3 | 3 | 1 | 25 |
| R4年度 | 1 | 3 | 1 | 2 | 6 | 5 | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 | 3 | 29 |
| R3年度 | 1 | 1 | 1 | 2 | 3 | 1 | 1 | 6 | 1 | 2 | 1 | 4 | 24 |

②デイサービス

(単位：人)

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|
| R5年度 | 2 | 0 | 1 | 5 | 1 | 2 | 9 | 5 | 1 | 1 | 2 | 2 | 31 |
| R4年度 | 2 | 3 | 1 | 4 | 1 | 3 | 4 | 4 | 1 | 2 | 4 | 2 | 31 |
| R3年度 | 1 | 0 | 3 | 2 | 4 | 2 | 3 | 4 | 3 | 3 | 4 | 2 | 31 |

(2) ショートステイ

表2 月間実利用者人数平均値及び延べ利用者数

| 年度 | 平均値 | 延べ利用者数 |
|-------|--------|--------|
| 令和5年度 | 24.88人 | 3,733人 |
| 令和4年度 | 28.83人 | 3,673人 |
| 令和3年度 | 29.58人 | 3,793人 |
| 令和2年度 | 32.50人 | 3,649人 |

表3 令和5年度利用者数推移

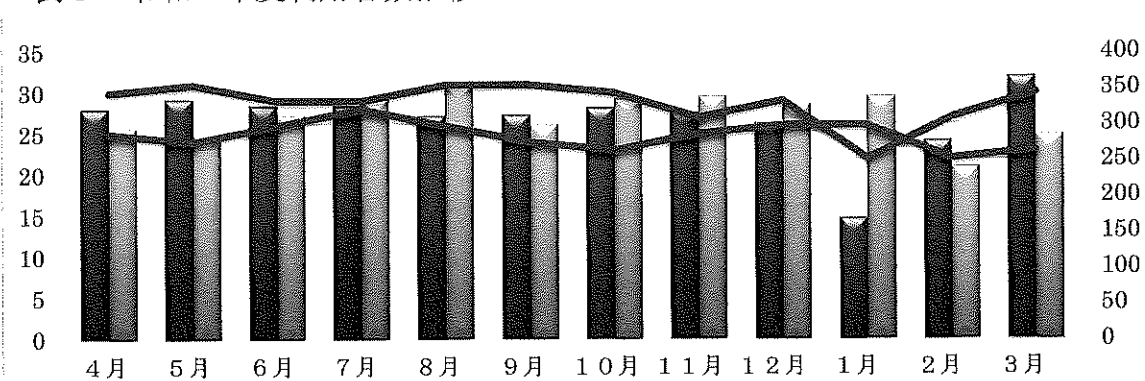


表4 要介護度別の利用状況について (単位：人)

| | 要支援1 | 要介護1 | 要介護2 | 要介護3 | 要介護4 | 要介護5 |
|-------|------|------|------|-------|-------|------|
| 令和5年度 | 11 | 186 | 553 | 1,204 | 1,353 | 426 |
| 令和4年度 | 58 | 297 | 346 | 1,481 | 805 | 686 |
| 令和3年度 | 2 | 391 | 591 | 1,425 | 525 | 823 |
| 令和2年度 | 25 | 385 | 603 | 1,156 | 774 | 706 |

(3) 予防通所介護

○予防通所介護

延べ利用者数

(令和5年度)

(令和4年度)

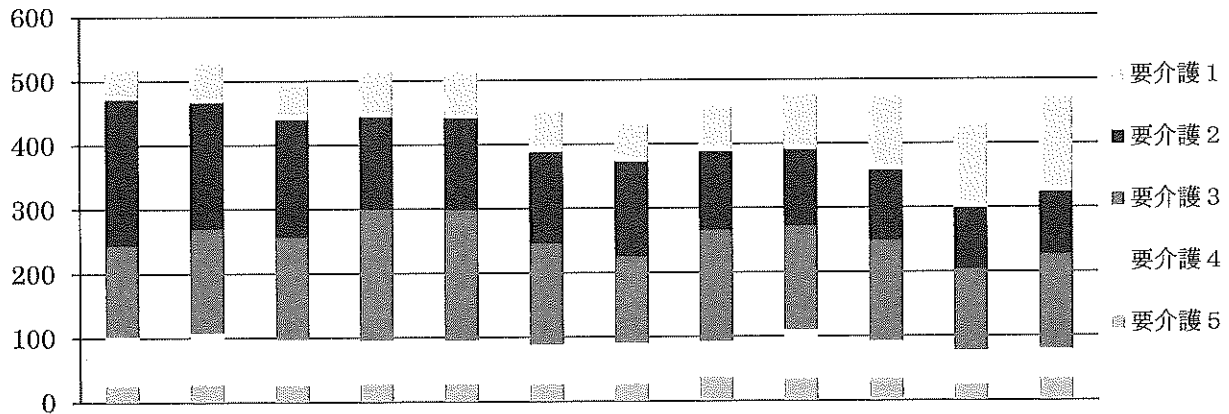
| | | |
|---------|--------|--------|
| 要支援1・・・ | (180人) | (195人) |
| 要支援2・・・ | (587人) | (525人) |
| 合計 | (767人) | (720人) |

表5 予防通所介護月別実利用者数 (単位：人)

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|
| 要支援1 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 4 | 4 | 3 | 3 | 2 | 2 | 32 |
| 要支援2 | 5 | 5 | 4 | 6 | 5 | 5 | 5 | 5 | 6 | 7 | 6 | 6 | 65 |
| 合計 | 8 | 8 | 6 | 8 | 7 | 7 | 9 | 9 | 9 | 10 | 8 | 8 | 97 |
| 令和4年度 | 9 | 10 | 10 | 9 | 8 | 7 | 8 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 96 |

(4) 通所介護

表6 通所介護延べ実績数 (単位：人)



| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 要介護1 | 46 | 61 | 53 | 71 | 72 | 64 | 59 | 71 | 85 | 115 | 131 | 147 | 975 |
| 要介護2 | 227 | 196 | 182 | 144 | 143 | 141 | 147 | 121 | 118 | 108 | 94 | 96 | 1,717 |
| 要介護3 | 142 | 162 | 160 | 204 | 203 | 158 | 135 | 174 | 162 | 157 | 127 | 148 | 1,932 |
| 要介護4 | 77 | 81 | 72 | 68 | 68 | 62 | 64 | 56 | 76 | 59 | 53 | 46 | 782 |
| 要介護5 | 25 | 27 | 25 | 27 | 27 | 26 | 26 | 36 | 34 | 33 | 24 | 33 | 343 |
| 合計 | 517 | 527 | 492 | 514 | 513 | 451 | 431 | 458 | 475 | 472 | 429 | 470 | 5,749 |

表7 利用者総実績数<介護(延)・予防(延)総利用者数>

| | 目標利用者数 | 実績利用者数 |
|-------|--------|--------|
| 令和5年度 | 7,740人 | 6,516人 |
| 令和4年度 | 7,900人 | 7,258人 |
| 令和3年度 | 8,670人 | 7,811人 |

居宅ケア部会議実施状況一覧

| 会議名 | 年間実施回数 | 平均出席 | 参加職種 | 会議の内容 |
|---------|--------|------|--|--|
| 全体会議 | 10回 | 10人 | 施設長 副部長 看護課長 課長補佐 介護職員 看護職員 | 懸案事項審議、勉強会の開催、感染症対策の周知・徹底、業務等の報告、身体拘束虐待防止研修等 8月・2月は感染症状況により中止 |
| 係長会議 | 12回 | 5人 | 施設長 副部長 看護課長 課長補佐 介護係長 | サービス内容の検討や実施状況の確認・委員会のとりまとめや感染症対策の検討等 |
| 事故防止委員会 | 適宜 | 3人 | 課長補佐 介護係長 介護職員 | 事故分析、再発防止策の検討、環境整備など |
| リハビリ委員会 | 12回 | 5人 | 副部長 看護課長 課長補佐 介護係長 | リハビリ実施状況の確認・個別機能訓練の取組内容の整備・管理全般など |
| ADL委員会 | 12回 | 5人 | 副部長 看護課長 課長補佐 介護係長 | 個別処遇のとりまとめやサービス内容の実施状況の確認・管理など |

5. 設備関係整備年表

| | | |
|----------------|--------|---|
| 1995 (平成 7) 年 | 3月31日 | スプリンクラー設備工事 (社会福祉施設設備補助) 完了 |
| 1999 (平成 11) 年 | 3月31日 | 自立浴・機械浴室統合工事 (大規模修繕事業) 完了 |
| 2000 (平成 12) 年 | 7月10日 | 厨房統合工事完了 |
| | 11月13日 | 居室等施設内空調機改修工事 (大規模修繕事業) 完了 |
| 2001 (平成 13) 年 | 3月26日 | ナースコール改修工事 (業務省力化設備事業) 完了 |
| | 5月26日 | デイルーム確保・医務室移転等事業 (大規模修繕事業) 完了 |
| | 10月18日 | 屋根改修工事事業 (大規模修繕事業) 完了 |
| 2003 (平成 15) 年 | 5月21日 | 食堂ホールの空調機改修工事 (中央競馬場主社会福祉財団助成) |
| 2004 (平成 16) 年 | 1月30日 | 温冷配膳車導入 (5台) |
| | 8月30日 | 洗面台を自動センサー式に交換 (4台) |
| | 12月31日 | オゾン殺菌脱臭機導入 (1台) |
| 2006 (平成 18) 年 | 6月4日 | スチームクリーナー2台導入 |
| 2008 (平成 20) 年 | 6月8日 | 自立浴浴槽縁改修工事 |
| | 10月31日 | 給湯用ボイラー交換工事完了 (1台) |
| 2009 (平成 21) 年 | 1月31日 | 全自動汚物除去機交換工事完了 (1台) |
| | 4月13日 | 加湿空気清浄機導入 (大型12台) |
| | 6月5日 | ドクタープラス生成機導入 (1台) |
| | 9月25日 | 加湿空気清浄機導入 (小型45台) |
| 2010 (平成 22) 年 | 3月31日 | トイレ改修工事、ナースコール・電話設備交換工事 (大規模修繕事業) 完了 |
| | 6月24日 | 多機能型居宅ケアグループ (ショートステイ・デイサービス) 相談室設置工事完了 |
| | 10月8日 | 職員玄関手前間仕切り用自動ロックドア設置 |
| | 10月22日 | 給湯用ボイラー (補助用) 交換工事完了 |
| | 12月2日 | ショートステイ用個室トイレ改修工事完了 |
| 2011 (平成 23) 年 | 2月6日 | 機械浴槽入替工事完了 |
| | 7月20日 | 用務員室クロス張替工事完了 |
| | 7月31日 | 職員玄関前及びリネン倉庫前舗装工事完了 |
| | 8月4日 | 北側及び南側ポーチ段差解消工事完了 |
| | 8月11日 | 厨房屋根防水工事完了 |
| 2012 (平成 24) 年 | 3月30日 | リネン庫及び職員玄関通路屋根設置工事完了 |
| | 5月15日 | 施設内パソコン入替工事完了 |
| | 6月2日 | 調理室内空調機交換工事完了 |
| | 7月17日 | 北側ポーチ前駐車スペース舗装工事完了 |

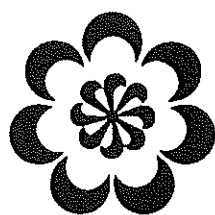
| | | |
|-------------|--------|--|
| | 7月27日 | 駐車場用地（渋川市半田778-8外1筆） 競売により取得 |
| 2012（平成24）年 | 1月19日 | 北側新駐車場（来客用兼夜勤者用）工事完了 |
| | 1月18日 | 厨房内スチームコンベクション入替工事完了 |
| | 1月26日 | 厨房内自動食器洗浄機入替工事完了 |
| 2013（平成25）年 | 4月10日 | 調理職員用休憩室設置工事完了 |
| | 10月31日 | スーパー低床介護ベッド3台導入 |
| 2014（平成26）年 | 5月31日 | 洗濯物干し場屋根・食堂東側テラス修繕工事完了 |
| | 8月31日 | 受水槽増設工事完了 |
| | 8月13日 | 西側ブロック塀（中央部）に上毛カルタを塗装 |
| | 9月30日 | 非常用放送設備（事務所・第2介護員室）入替工事完了 |
| | 12月25日 | 厨房内ガステーブル入替完了 |
| 2015（平成27）年 | 3月31日 | 建物外壁修繕工事（大規模修繕事業）完了 ぐんまちゃんの絵を塗装 北側給湯用ボイラー入替工事完了 |
| | 8月26日 | 西側ブロック塀（南寄り）に上毛カルタを塗装 |
| | 11月19日 | 高圧開閉器（PAS）・ケーブル交換工事完了 |
| | 11月30日 | 施設内空調機改修工事（大規模修繕事業）完了 |
| 2016（平成28）年 | 5月20日 | カラオケ機材（JOYSOUND）導入 |
| | 5月23日 | 汚物除去機（洗濯室）入替工事完了 |
| | 6月3日 | 乾燥機・洗濯機（洗濯室）入替工事完了 |
| | 9月17日 | 洗濯室内改修工事完了 |
| | 12月15日 | 居室内給水管分岐取付工事 |
| 2017（平成29）年 | 1月16日 | 火災通報専用電話改修工事 |
| | 7月20日 | 浄化槽内水中ポンプ更新完了 |
| | 7月29日 | 調理室配管漏水修繕工事完了 |
| | 9月26日 | 東側擁壁補強工事完了 |
| 2018（平成30）年 | 1月5日 | 南側玄関ポーチコンクリート修繕工事 |
| | 2月1日 | 食堂ホールパーテーション設置工事（渋川市 古巻地域包括支援センター事務所用） |
| | 3月7日 | スーパー低床介護ベッド3台導入 |
| | 5月11日 | 北側玄関自動ドア工事完了 |
| | 9月5日 | 南側受水槽ポンプ交換工事完了 |
| | 11月8日 | 北側受水槽ポンプ交換工事完了 |
| | 12月12日 | テーブル型冷蔵庫1台 冷凍冷蔵庫1台更新 |
| 2019（平成31）年 | 2月20日 | スーパー低床介護ベッド3台導入 |
| 2019（令和元）年 | 10月31日 | 温冷配膳車5台リースにより入替 |
| 2020（令和2）年 | 1月29日 | スーパー低床介護ベッド7台導入 |
| | 1月31日 | 永光荘西側ブロック塀撤去・フェンス設置工事 |
| | 12月3日 | コロナウィルス感染症対策備品(オゾン発生装置 10台、顔認証温度検知システム3台、食堂間 仕切り一式) 導入 |

| | | | |
|-------------|--|--------|--|
| | | 12月22日 | スーパー低床介護ベッド（離床センサー内蔵型） 5台導入 |
| 2021（令和 3年） | | 1月20日 | Wi-Fi 設置工事 |
| | | 3月 3日 | スーパー低床介護ベッド2台導入 （ショートステイ） |
| | | 9月30日 | A重油ボイラーサービスタンク修理完了 |
| 2022（令和 4年） | | 11月17日 | スーパー低床介護ベッド1台導入 |
| | | 5月24日 | シャワーキャリー2台、バスタブ1台導入 |
| | | 7月 4日 | 給湯設備更新工事 |
| | | 10月24日 | 個室部屋ドア修理（23号室） |
| 2023（令和 5年） | | 10月31日 | 南側門扉改修工事 |
| | | 2月 1日 | スーパー低床介護ベッド（離床センサー内蔵型） 5台導入 |
| | | 3月28日 | 個室部屋ドア修理（20号室～22号室） |
| 2024（令和 6年） | | 7月31日 | 浴室用自動塩素制御ユニット交換 |
| | | 3月31日 | 個室トイレ手摺修理（20号室～22号室） |
| | | 3月31日 | スーパー低床介護ベッド（離床センサー内蔵型） 7台導入（特養5台、ショートステイ2台） |

資料 3

令和 5 年度

事業報告書



社会福祉法人 永光会

特別養護老人ホーム清流の郷
管理部
特養部
デイサービス部

もくじ

| | | |
|----------------|-----------------|---------|
| 1. はじめに（総括） | ・・・・・・・・ | 1 |
| 2. 管理部 | ・・・・・・・・ | 4 |
| 1) 職員健康診断等状況等 | ・・・・・・・・ | 5 |
| 3. 特養部 | ・・・・・・・・ | 6 |
| 1) 介護課 | ・・・・・・・・ | 7 |
| 2) 看護課 | ・・・・・・・・ | 8 |
| 3) 栄養調理課（給食状況） | ・・・・・・・・ | 9 |
| 4. ショートステイ | ・・・・・・・・ | 11 |
| 5. デイサービス部 | ・・・・・・・・ | 13 |
| ○介護保険事業 | ・・・・・・・・ | 13 |
| 1) 介護課 | ・・・・・・・・ | 14 |
| 2) 看護課 | ・・・・・・・・ | 15 |
| ○日常生活支援総合事業 | ・・・・・・・・ | 15 |
| 6. 付表 | | |
| 管理部 | （表-1） ～ （表-5） | ・・16～19 |
| 特養部 | （表-6） ～ （表-16） | ・・20～23 |
| ショートステイ | （表-16） ～ （表-18） | ・・23 |
| デイサービス部 | （表-19） ～ （表-22） | ・・24～25 |

1. はじめに（総括）

令和5年度は、

『ONE for ALL, ALL for ONE』

（ひとり是一切のために、全てはひとつの目標のために）

～高齢者の生活を守る目標に向かって、全員の力を集結させよう～

を施設方針として、事業を行ってきた。ここに一年間の総括をしていきたい。

まず初めに報告しなければならない出来事は、コロナ感染症クラスターについてである。令和4年度も複数の感染者が発生したが、今年度は初めて特養入居者が数人感染する事例が数回発生し、その度に2つのユニットを繋ぐフロアをゾーニングして対策を行った。感染した入居者のなかには100歳になる方もいて、とても心配した日々が続いたが、感染した入居者・利用者に重症者が出ることなく、感染した数日後に全員回復され、その後の生活も感染前にほぼ戻られている。ゾーニング中は各部署・各職員が感染拡大防止に尽力し、自分たちがその時「何ができるか」

「何をすべきか」を他部署とよく連携を図り、施設方針である『ONE for ALL, ALL for ONE』が皮肉にも一番顕著に実践できた場面であった。自分がどの部署に所属しているかは関係なく、クラスターを如何に早く収束させることに全職員が持てる力を集中した結果、短い期間で収束できたのではないかと考える。世間ではもう新型コロナはなくなったかのような賑わいであるが、いまだに職員や職員の家族が感染する事例は多く、これからも今までと同様な予防対策は継続していかなければならない。

次に入居者・利用者状況であるが、全ての事業で年度当初の目標に届かず、特養は稼働率目標97%に対して95.5%、ショートステイは稼働率目標83.3%に対して70.6%、デイは延べ利用者数目標7,600人に対して5,911人であった。特養とショートについては、収入に大きく影響が出るほどの減少ではなかったが、デイは一次補正予算で大幅に減額した収入を取り戻すことはできなかった。要因をあげるとすれば、特養・ショートの減少はコロナクラスターが大きい。全てをコロナのせいにしたくはないが、入居が決まっていた方の延期や休止、ショート利用者の帰宅前倒し等で予定していた入居者・利用者の欠員は稼働率に大きく影響した。デイは令和4年度に発生したコロナクラスターの影響を引きずり、思っていた集客ができずに今年度を終えてしまった。清流の郷デイの特徴を発掘することができず、また各居宅介護支援事業所やケアマネジャーにPRすることもできなかった。令和6年度はその反省のもと、デイの集客に全職員で力を注いでいきたい。

BCPについては、作成後に訓練を実施し見直しを計画していたが、コロナクラスターが発生したために訓練はできなかった。しかし、感染症については数回のク

ラスターが皮肉にも実戦の繰り返しになり、現行BCPの不備や不足が見つかり、今後見直しをしていきたい。また、今年元日に発生した能登地震を教訓に、災害BCPの見直しも急務であるとする。この地震で課題となった発生後の生活用水の確保や職員の通勤インフラの事前確認等をBCPに盛り込んでいきたい。また、能登に応援に行った専門家から、今までBCP作成時になかった「BCP放棄」という観点を入れたほうがよいとの指摘を頂いたので見直し時に検討していきたい。

ICT化については、まずLIFEのフィードバックがようやく取得できるようになった。今後、LIFEは新バージョンになるので、その運用に早く順応していきたい。その上でフィードバックを参考にLIFE活用委員会にてプラン及びケアへ反映させる準備をしていきたい。また、眠りスキャンをショートステイユニットへ導入し、個別の就寝・覚醒や生活リズムの確認を行い、過度な夜間見回りや入眠時の排泄介助の軽減に導くことができた。来年度予定している「介護現場における生産性向上」の要件のひとつとして、眠りスキャンを含む見守りセンサー導入があげられるので、来年度の委員会の中で導入拡大をしていくべきか議論していきたい。12月に県の介護ロボット補助金事業を活用してコミュニケーションロボット「LOVOT」を4機導入した。コミカルな動きと愛着のある目等は高齢者に癒しをもたらしている様子で、抱っこしたままお昼寝している方や手を叩いて「おいで、おいで」と声を掛けている方の姿を見かける。また仕事の合間に声を掛ける職員も多く、職員のストレス解消にも一役買っているようである。

今年度も年2回の「身体拘束等適正化のための研修」を実施した。現場で目に見える身体拘束等はほとんどなくなっているが、目に見えない「言葉による抑制」や「拘束につながる環境」、「不適切ケア」等について、グループワークにて見直した。また、ようやく外部への研修や会議に出席できるようになり、参加した職員が他の職員へ伝達する内部研修を何回か実施し、レベルアップ・ボトムアップに繋がった。

今年度特養を退所（死去）された方は14人であり、そのうち11人が施設にてお看取りをした。お亡くなりになった方への哀悼の意を表すとともに、看取りに従事した職員に感謝したい。現在、特養に入居される高齢者は重度要介護者が多く、また施設で看取りを希望される方やご家族が多い。コロナ禍で面会も儘ならない中、今年度も看取りが開始された方には感染予防対策をしっかりと上でご家族との直接面会を実施して、最期に逢えてよかったとご家族から感謝されることが多かった。可能であれば、全ての入居者の直接面会を再開したいが、まだ踏み切れない現実がある。今後も看取りが開始された方には直接面会ができるよう環境をつくっていきたい。

最後に今年度を含む過去5年間の各事業の介護保険収入を下記の表に示す。冒頭にも記したが、デイの収入が毎年減少している。清流の郷が事業継続していくためには、今後のデイの収入増加が大きな鍵になることを来年度の大きな課題のひとつ

と捉えて、令和5年度事業報告の総括としたい。

各事業の介護保険収入

| 年度 各事業 | 令和 元年度 | 令和 2年度 | 令和 3年度 | 令和 4年度 | 令和 5年度 |
|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 特 養 | 244,276 | 248,799 | 251,104 | 253,425 | 255,889 |
| ショート | 25,373 | 25,784 | 26,130 | 44,573 | 42,920 |
| デ イ | 91,476 | 82,757 | 82,611 | 70,895 | 62,896 |
| 合 計 | 361,125 | 357,340 | 359,845 | 368,893 | 361,705 |

2. 管理部

【年度目標①】全ての施設利用者に満足頂けるサービスを提供するために、職員一人ひとりが、自分らしく能力をフルに発揮できる職場環境づくりの支援を行う。

職員が心も身体も元気に業務継続できるよう、健康増進を目指す。

(評 価) 感染症防止のために、職員間で一緒に食事をする事ができない環境下で、職員のストレス解消の一助になり得たかは定かではないが、見かける職員に対して、気軽に仕事やそれ以外の雑談をしながらコミュニケーションをとり、少しずつ職員同士の相互理解を深めることができた。その結果、ストレスチェックでは、前年度の結果よりも高ストレスと診断される職員が減少した。

また、毎日定刻のラジオ体操を今年度も引き続き実施した結果、健康診断の腰痛チェックでは、前年度よりも腰痛職員が若干減少した。

【年度目標②】感染症から施設を守る。

(評 価) 8月頃から、施設の利用者がコロナウイルスに感染し、職員にも感染者が発生した。入館者への手指消毒や検温などを徹底して来たが、職員からの利用者への感染となったことは否めない。

年度内で複数回、小単位のコロナ感染は見られたが、重症化や死亡者の発生に至らなかったことは、施設の全職員で協力して感染症BCPの対応をしてきた結果である。

総務係・用務係

【年度目標①】物的資源を護る。

(評 価) 利用者居室照明をLED照明へ更新するなど、専門的知識や部材を必要としない電気工事は、管理部で対応ができるよう資格を取得して作業を行い、業者へ依頼する経費を節約することができた。

次年度以降も施設で必要とされる職員を目指し、業務で必要となる技術や資格を研鑽していきたい。

【年度目標②】 災害に備える。

(評 価) 火災訓練は実施できたが、災害BCP訓練は施設内のコロナ感染発生により、実施することができなかった。その代わり『法人事故防止の日』に、インカムやラインワークス等ICTを活用して、災害発生を想定した『安否確認訓練』などを行った。

令和6年正月に発生した能登半島地震を受け、BCP訓練実施と共に現行マニュアルの見直しが重要であるため、新年度も引き続きしっかりと対応していく。

【年度目標③】 SDGsを推進する。

(評 価) 職員のマイボトル活用の定着が進み、施設からのペットボトルゴミの排出量を前年度よりも少し抑えることができた。

空調の活用では、猛暑日が続いた夏季や暖冬の傾向ではあるものの、寒かった冬季など、極端な温度設定になりがちな「局所集中稼働運転」から、温度設定“夏季27℃”“冬季20℃”での「低出力広範囲運転」に切り替えることで、電気料金を抑えることができた。

なお、年度目標以外の取組みとして、以下を実施した。

(1) 職員健康診断や新型コロナウイルスワクチン接種等の状況

1. 職員健康診断状況

令和 5年 6月23日 63人 (全体職員健診)

令和 5年11月29日～1月30日 25人 (夜勤従事職員健診)

2. 新型コロナウイルスワクチン接種 (春と秋の年間2回)

(春) 令和 5年 5月22日～ 5月31日 (利用者と職員)

(秋) 令和 5年10月23日～11月 1日 (利用者と職員)

3. 職員インフルエンザ予防接種状況

令和 5年11月 6日 61人 (全体職員予防接種)

4. ストレスチェック実施状況

令和 5年11月23日～30日 53人 (週30時間以上勤務者)

3. 特養部

【年度目標①】利用者ケアの向上を目指す。

(評 価) 6月に在宅ケアネット渋川主催による「食を楽しむための、においと嚥下の知識」の研修会に12人が参加し、参加した職員が講師となり、介護課会議にて研修内容のフィードバックと演習を行った。

9月にACP研修に生活相談員、施設の介護支援専門員が参加。3月に在宅ケアネット渋川主催による「在宅におけるスキンケア」に、9人が参加し、ケアの質の向上に繋がった。

施設で新型コロナウイルス感染症のクラスターが複数回発生し、予定していた施設内研修や、委員会を開催することができず、マニュアルの作成や見直しが計画通り進められなかった。

また、新型コロナウイルス感染症の終息までには、最低2週間程度を要し、利用者の日常に大きく影響してしまった。

【年度目標②】笑顔で働ける職場づくりを目指す。

(評 価) 新人職員と3ヶ月毎に面接を実施し、課題と目標について共有した。

3月に、試行的に勤務時間帯の見直しを行い、メリットとデメリットが明らかになったので、ケアや業務の見直しについて今後も検討を行い、笑顔で働ける職場づくりを進めていきたい。

【年度目標③】時代に求められる施設づくりを目指す。

(評 価) 食事委員会において、自助具のマニュアルを作成した。また、使用していない自助具の整理と活用について見直しを行った。

LIFEについては、フィードバックを踏まえたPDCAサイクルの構築と、サービスの質の向上に繋げることはまだ未達成であり、今後は達成できるようにしていきたい。

【年度目標④】ベッド稼働率97%を目指す。

(評 価) 令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行した。世間的には、新型コロナウイルス感染症前の生活に戻ろうとする流れの中、高齢者施設である清流の郷では、勤務中のマスク着用、オンライン面会や窓越し面会の継続（直接面会の制限）等、従来への対応を維持し、新型コロナウイルス感染症の施設内での蔓延防止を図った。しかし、8月、10月、11月に施設で、新型コロナウイルスのクラスターが発生した。その間、新規入所者の受け入れを停止

したことがベッド稼働率低下の要因となり、特養のベッド稼働率は95.5%と、目標の97%を1.5ポイント足りず、目標を達成することができなかった。



百寿①



百寿②



LOVOT (さくら)



花見の名所へ出掛けた



久しぶりの猫祇園



コロナ対応と備品

1) 介護課

【年度目標①】 介護職員のレベルアップとモチベーションアップを目指す。

(評価) 介護課会議において、6月は「食を楽しむための、においと嚥下の知識について」というテーマで内部研修会を開催した。おいしく食べるための知識とトロミ剤の正しい使用方法について、資料と演習でレベルアップを図ることができた。

9月は職員が講師となり、「ラフターヨガ」という運動法で声を出し、身体を動かし、ストレス発散方法や笑うことの大切さについて学んだ。

【年度目標②】 時代に求められる施設介護職員を目指す。

(評価) 介護課会議において、7月に認知症利用者支援スキル「コミュニケーション」で不適切なコミュニケーションなどについて、グループワークを用いて実施した。3月は虐待に繋がる不適切ケアについて、チェックリストを使用し、個人ワークとグループワークを用いて実施した。接遇

の見直しや虐待防止のための内部研修を開催し、時代に求められる施設介護職員に必要な知識と技術を学んだ。

喀痰吸引等研修（第二号）は、4人が実地研修を修了し、認定特定行為業務従事者認定証による認定を受けることができた。（行為の追加を含む）

2) 看護課

【年度目標①】利用者に健康で笑顔あふれる生活を送っていただけるように他部署と連携・協働し、最善の看護の提供を目指す。

（評 価） コロナ感染症対応中は業務優先になってしまい、コミュニケーションや身体的ケアに十分な時間が取れず利用者には寂しい思いをさせてしまった。対応期間が明けてからは爪切りなどを含む保清の時間を個別に作り、利用者の表情を引き出す工夫ができた。

また、徐々に食事が摂れなくなり、看取り段階に入りそうな利用者数人の方において、嘱託医・栄養調理課・看護・介護連携のもと経口摂取が再開できるようになった。

【年度目標②】看取り看護において看護職員全員が協調と信頼をもち、最期まで利用者の尊厳を守り、心に寄り添う看護ケアを目指す。

（評 価） 今年度14人が死亡退所となり、その中で11人が施設で看取りを行った。看取り対応中の利用者は、状態変化を家族に連絡し直接面会をしてもらえるよう配慮し、家族から利用者の情報を得てケアに役立てることができた。

看護職員1人が看取りの研修に参加し、看取りのスキルアップに繋がられるよう、情報の共有ができた。

【年度目標③】施設全体で感染予防に努める。

（評 価） コロナ感染症のクラスターが、特養で3回、ショートステイで2回発生した。回数を重ねるごとに、コロナ感染対応がスムーズに行えるようになり、感染拡大の防止に繋げることができ、感染した利用者が重症化することなく軽快し、日常生活を取り戻すことができた。職員も、出勤前の検温実施や体調の変化に対して敏感に反応するようになり、健康意識の向上につながった。

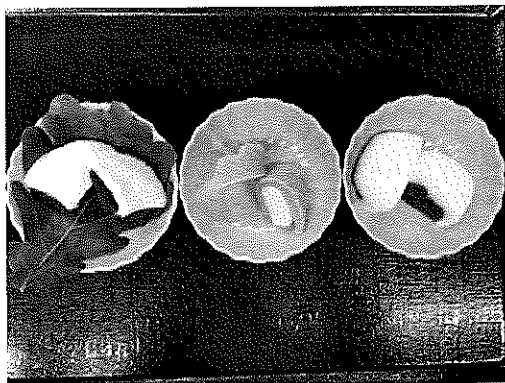
また、入所者の健康診断やレントゲン検査も安全に実施できた。

3) 栄養調理課

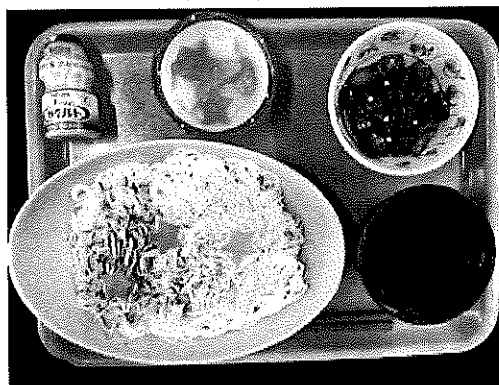
【年度目標①】 季節に合った食事作り

(評 価) 通常の給食では、調理済み食品を使用する頻度が上がったが、行事の際は、食事を通じて季節を感じていただけるよう工夫をした。新年祝賀会のおせちは、キザミや超キザミでも食べやすく、見た目も常菜に近い形で提供できるようにおせちのムース食作りに挑戦した。(写真右下)
利用者、介護・看護職員からも好評で、残食も例年に比べ少なかった。
(付表 行事食参照)

5月おやつ「端午の節句」
柏餅 (常菜、和菓子、スベラカーゼもち)



7月昼食「七夕」
七夕そうめん



9月昼食「敬老の日」
赤飯、豚角煮、ムースケーキ等



1月昼食「おせち」
上：ムース食 下：常菜



【年度目標②】 基本に立ち返り、マニュアルに沿った安心安全な食事を提供する。

(評 価) 12月に5年ぶりの保健所指導監査が行われた。大きな指摘事項はなかった。細かい指摘事項に関しては速やかに改善した。異物混入などの大きな事故報告はなかったが、献立の見落としや補充の間違えなどのヒヤリハットは多かった。今後も大きな事故にならないよう注意していきたい。

【年度目標③】 スキルアップのチャレンジが出来る環境づくり

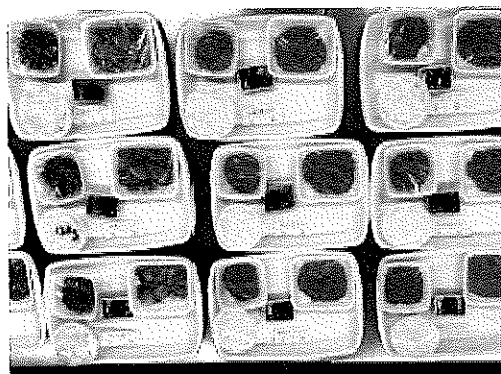
(評 価) 昨年度作成したマニュアルを基準にして、新人育成を行なった。

未完成のマニュアルがあるので今後完成を目指し、完成しているマニュアルに関しては、変更点があれば随時更新していきたい。

今までベテラン調理師が優先して調理していたが、スキルアップのため体制を見直した。基本的な献立であれば調理員誰でも対応できるようになった。来年度は行事食にも対応できるようにさらにスキルアップを目指していきたい。

【感染症対応】

(評 価) 特養ユニットで利用者や職員がコロナウイルスに感染した際には、対象ユニットのみ一部献立を変更し、使い捨て食器にて提供し、感染防止に尽力した。



4. ショートステイ

【年度目標①】利用者満足度向上を目指す。

(評 価) 居室環境の充実を図り、居室でゆっくり過ごす方が以前に比べ多くみられた。

日中活動では、個別レクやリハビリプログラムを実施した結果、利用者満足度が向上し、リピーターや定期利用に繋がった。

眠りSCANの導入により、パソコン画面のリアルタイムで睡眠・覚醒・起き上がり・離床の状態を把握し、利用者の生活リズムに合わせたケアを行うことができた。

【年度目標②】送迎事故『ゼロ』を目指す。

(評 価) 5月に送迎車を更新し、ユニット会議で、使用方法の研修を行った。6月には送迎マニュアルを活用し、安全運転や運転中のマナーについての研修を行った。

12月に運転前後のアルコールチェックシステムを導入した。こうした取組の結果、ショートステイの送迎事故『ゼロ』を達成することができた。

【年度目標③】基本的ケアのレベルアップを目指す。

(評 価) 介護プロフェッショナルキャリア段位制度のアセッサーによる、内部評価を、入職後3年以内の介護職員に実施し、基本的ケアのレベルアップを図った。

【年度目標④】ベッド稼働率83.3%を目指す。

(評 価) 8月中旬から9月上旬の間は、ショートステイユニットで、ヒトメタニューモウイルスの蔓延があり、数日間ではあるが利用の受け入れ停止や、一部のケアを縮小、代替えすることがあった。

2月と3月には、それぞれ、数人の利用者が利用中に新型コロナウイルス感染症に感染し、他の利用者の利用の受け入れ停止や、一部のケアを縮小、代替えし対応した。ショートステイ職員は、感染予防を徹底していたこともあり、コロナウイルスに感染せず、業務を継続することができたが、結果としては、年間のショートステイベッド稼働率が70.6%と、目標の83.3%より12.7ポイント足りず、目標を達成することができなかった。



更新した送迎車①



更新した送迎車②



眠りSCAN

5. デイサービス部

○ 介護保険事業

【年度目標①】 持続可能な運営を目指す。

(評 価) 令和6年1月下旬に利用者、職員1人ずつ、2月上旬に利用者、職員1人ずつの計4人の陽性者が出た。接触のあった利用者の利用中止や職員の体調管理の徹底により、感染拡大を防ぎ1年間休むことなく開館できた。年間利用者数は目標7,600人を目指したが、5,911人と下回った。新規39人、終了35人で、利用終了者が多く、理由は施設入所や死亡が主であった。介護支援事業所へのチラシ配りなどの営業活動を行い、ある程度認知を得ることが出来たが、定期的にもっと外部へ発信をして、更なる新規利用者の取込が必要であった。送迎では車椅子固定可能な軽車両を1台増やし、大型車運転手不在時でも業務が遂行できた。

(表-19、表-20) 参照

【年度目標②】 LIFEの運用とICT活用でサービスの向上をはかる。

(評 価) 毎月、利用者のデータ送信を実施し、2月にフィードバックを取得した。データ結果をケアに反映することはできなかった。来年度はフィードバックを活用し利用者の在宅生活が継続できるよう生活動作向上や残存能力を生かしたケアを実践していきたい。

ICT活用では介護ソフトでケア記録や連絡帳、事故報告書が入力でき、記録業務の簡略化とペーパーレス化が図れた。個別の情報は、ケアマネージャーと情報共有することができ、担当者会議がスムーズに進めた。

【年間目標③】 自立した生活につながるケアの実践

(評 価) 認知症ケアの勉強会を実施し、寄り添うケアを学び実践した、予防策の運動やコミュニケーションは継続できたが、回想法や音楽療法などの実践頻度は低かった。ヒヤリハット・事故報告書の提出により再発防止に努めた。転倒や滑落事故の環境要因(濡れた床、混雑するトイレや洗面所、集団での移動)は職員間で情報共有ができ共通の対応が出来た。利用者の関心や趣味の聞き取りは十分できなかった。次年度はより利用者の意向に沿ったサービスの提供を目指したい。

1) 介護課

【年度目標①】 利用者の日々の生活を守る

(評 価) 新型コロナウイルス感染症は、令和6年1月から2月にかけて、地域の感染者は増えたが、感染防止対策を徹底してデイでは蔓延は防げた。9月と2月身体拘束等適正化のための研修を受け防止に取り組み、言葉遣いや態度を意識することができた。さらに、丁寧な対応で来年度はクレームを0にしていきたい。

【年度目標②】 安全運転を励行し、交通法規を厳守。事故を「ゼロ」にする。

(評 価) 1年間を通して、無事故・無違反で送迎業務ができた。急発進、急ブレーキ、急ハンドル、スピード超過はなかった。令和5年12月からのアルコールチェックの義務化を受け職員も毎日アルコールチェックを行ってきたが飲酒・酒気帯びの違反者はいなかった。また送迎ルートを作成し業務に取り入れ、危険箇所の確認や注意事項を共有することができた

【年度目標③】 「デイが楽しみ」といわれるようなデイサービスにする

(評 価) 利用者の意欲向上を目的に5年度は月1回の「イベント」の日を設けた。感染症の影響により外出行事はできなかったが、各イベントに参加した利用者に楽しんでもらうことができた。また、12月よりコミュニケーションロボット「LOVOT」の導入により利用者や職員に癒しの時間を楽しむことができた。

(表-22) 参照



なつ旅・cue 慰問



夏祭り



餅つき



LOVOT 仲間入り



詩吟 慰問



ランチバイキング

2) 看護課

【年度目標①】 利用者の体調変化に気づき迅速な対応をする。

(評 価) 感染防止対策の継続で定時のバイタル測定に加え、体熱感など異常が見られた場合は注意深く観察し、家族や関係事業者と連携を取り、早期対応ができた。

【年度目標②】 利用者の筋力低下を予防する。

(評 価) 個別リハビリ、グループリハビリを毎回継続して行った。利用者の目標に沿って筋力低下の予防に取り組んだ。コロナの影響もあり、理学療法士の訪問が少なかったが、指導を受け効果的なりハビリを実施することができた。1年を通して利用者も筋力維持ができた。

○ 日常生活支援総合事業

【年度目標①】 利用者の自立支援を図る。

(評 価) レクリエーションやリハビリ体操の参加を促して、筋力低下防止や他者との交流の促進に取り組んだ。編み物や手芸など趣味を楽しめる時間を提供した。

【年度目標②】 月平均実利用者「13人以上」

(評 価) 月平均実利用者は「9.66人」で目標を達成できなかった。要介護に移行者と比べ、新規受入れが伸びなかった。

(表-21) 参照

6. 付表

施設整備等実施状況 (表-1)

| 項目 | 内容 | | | 備考 | | | |
|------|------|---------------|----|----|----|---------|-----|
| 設備修繕 | 施設全体 | 機械室ガス給湯器設備修繕 | 1式 | 令和 | 5年 | 4月完了 | 169 |
| 備品購入 | デイ | あかぎの湯間仕切りカーテン | 1式 | 令和 | 5年 | 7月設置 | 111 |
| 設備修繕 | 特養 | 2階さくら棟空調修理 | 1式 | 令和 | 5年 | 7月完了 | 216 |
| 設備更新 | 特養 | 居室用エアコン(すみれ) | 1台 | 令和 | 5年 | 9月納品 | 189 |
| 設備修繕 | 施設全体 | 玄関風防重量シャッター修繕 | 1式 | 令和 | 5年 | 10月完了 | 451 |
| 設備修繕 | 特養 | 2階さくら棟空調修理 | 2式 | 令和 | 5年 | 10月完了 | 275 |
| 設備整備 | 施設全体 | 非常用発電装置整備作業 | 1式 | 令和 | 5年 | 10月完了 | 429 |
| 設備更新 | 特養 | 居室自動水栓温水器 | 1台 | 令和 | 5年 | 12月納品 | 163 |
| 備品購入 | 施設全体 | LOVOT(ペットロボ) | 4台 | 令和 | 5年 | 12月納品1, | 317 |
| 設備修繕 | 施設全体 | 正面玄関自動ドア修繕 | 1式 | 令和 | 6年 | 2月完了 | 187 |
| 設備更新 | 特養 | 居室自動水栓温水器 | 1台 | 令和 | 6年 | 2月納品 | 163 |
| 設備更新 | デイ | 汚物室電気温水器 | 1台 | 令和 | 6年 | 3月納品 | 276 |
| 備品購入 | 特養 | 離床センサー内蔵ベッド | 2台 | 令和 | 6年 | 3月納品 | 770 |

施設外研修と会議 (表-2)

出席件数(前年度)

| 職種 | 部会・定例会・会議 | 一般研修 | 講師 |
|-------------|-----------|-------|------|
| 施設長 | 11(11) | 6(6) | 9(9) |
| 相談員(特養・デイ) | 2(3) | 5(9) | 0(0) |
| 介護職員(特養・デイ) | 2(3) | 6(18) | 0(0) |
| 看護職員(特養・デイ) | 0(0) | 4(6) | 0(0) |
| 栄養調理・管理部職員 | 2(2) | 3(3) | 0(0) |

※研修や会議は、WEBリモート開催等を含む。今年度の県外研修参加実績はない。

※講師は、大谷施設長が県立青翠高等学校からの依頼により出席した回数。

※運営会議と広報委員会は、法人開催により上記に含まない。

会議の実施状況 (表-3)

| 会議名 | 実施回数 | 平均出席 | 参加職種 | 会議の内容 |
|--------------|------|------|--|--------------------------|
| 法人運営会議 | 11 | 4 | 理事長、業務執行理事、事務長、 | 法人各事業の運営・管理及び法人懸案事項の決定 |
| 部長会議 | 8 | 4 | 施設長、生活相談員、管理副部長 | 施設各事業の運営・管理及び施設懸案事項の決定 |
| 設備検討委員会 | 8 | 4 | 施設長、生活相談員、管理副部長 | 施設設備に関する懸案事項の審議・検討 |
| 代表者会議 | 10 | 8 | 理事長、施設長、生活相談員、ケアマネ、看護係長、栄養士、調理係長、管理副部長 | 各部門懸案事項の審議、方針の徹底等 |
| 衛生委員会 | 10 | 8 | 施設長、衛生委員、産業医 | 労務の安全性と職員の健康保持促進の検討・啓発 |
| リスクマネジメント委員会 | 10 | 8 | 施設長、リスクマネジメント委員 | 事故分析、環境整備、マニュアル見直し |
| 感染症対策委員会 | 10 | 8 | 施設長、感染症対策委員 | 感染症に対する対策について協議・検討 |
| 入所等検討委員会 | 10 | 10 | 施設長、特養相談員、第三者委員、ケアマネ、介護・看護職員、栄養士 | 施設利用待機者の入所順序を審議・検討 |
| サービス担当者会議 | 10 | 9 | 施設長、ケアマネ、特養相談員、特養介護・看護職員、栄養士 | 利用者ケアプラン作成、モニタリングなど |
| 褥瘡対策委員会 | 10 | 9 | 施設長、特養相談員、ケアマネ、特養介護・看護職員、栄養士 | 褥瘡予防、対応方法の検討、マニュアルの見直し |
| ユニットリーダー会議 | 10 | 8 | 施設長、特養相談員、ケアマネ、介護課長、ユニットリーダー | ユニット介護サービス懸案事項の協議・検討 |
| 特養介護課会議 | 10 | 15 | 施設長、特養相談員、特養介護職員 | 介護サービス懸案事項の協議・研修 |
| デイサービス全体会議 | 9 | 12 | 施設長、デイ相談員、デイ介護職員、デイ看護職員 | デイサービス懸案事項の協議・研修 |
| 栄養調理課会議 | 5 | 7 | 施設長、栄養士、調理職員 | 栄養調理課内の諸事項の協議・研修 |
| 排泄委員会 | 10 | 6 | 施設長、特養相談員、排泄委員、メーカーアドバイザー | 排泄介助のための協議・検討と実施、反省 |
| 栄養委員会 | 10 | 6 | 施設長、特養相談員、栄養士、栄養委員 | 給食に関する事項審議、行事食、処遇改善策 |
| 食事委員会 | 10 | 8 | 施設長、特養相談員、管理栄養士、栄養士、食事委員 | 食事に関する事項審議 食事介助及び処遇改善 |
| 防災管理委員会 | 12 | 6 | 施設長、防災委員、訓練参加職員、訓練立会消防署員 | 防災計画、訓練実施と反省、安全管理と点検 |

「実施回数」は、年間の会議回数を表し、「平均出席」は、会議への平均参加人数を表す。
 ※施設内コロナ流行等により、開催予定の中止あり。

職員の配置状況 (表-4)

| | 特別養護老人ホーム | | | デイサービス | | |
|----------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 人数 | 年齢(平均) | 勤続(平均) | 人数 | 年齢(平均) | 勤続(平均) |
| 施設長 | 1 | 58 | 7.0 | (1) | | |
| 事務職員 | 2 | 60 | 16.0 | (2) | | |
| 生活相談員 | 1 | 46 | 16.0 | 1 | 55 | 16.0 |
| | | | | (4) | | |
| 介護支援専門員 | (2) | | | | | |
| 介護職員 | 26 | 43 | 5.8 | 8 | 47 | 7.5 |
| (非常勤) | 6 | 53 | 3.6 | 1 | 79 | 15.0 |
| 看護職員 | 5 | 43 | 4.8 | 3 | 50 | 7.9 |
| (非常勤) | | | | | | |
| 機能訓練指導員 | | | | | | |
| (非常勤) | 1 | 52 | 16.0 | 1 | 30 | 3.0 |
| 栄養士 | 1 | 31 | 4.3 | (1) | | |
| 調理職員 | 4 | 43 | 11.7 | (4) | | |
| (非常勤) | 1 | 73 | 1.5 | (1) | | |
| 医師 | | | | | | |
| (非常勤) | 2 | 65 | 15.2 | | | |
| 清掃洗濯職員 | | | | | | |
| (非常勤) | 3 | 54 | 9.4 | (3) | | |
| 合計 常勤 | 40 | 46 | 9.4 | 12 | 51 | 10.5 |
| 合計 (非常勤) | 12 | 59 | 9.1 | 2 | 55 | 5.1 |

() は兼務

令和 6年 3月31日現在

・特養介護支援専門員は、介護職員が兼務

・デイ生活相談員は、デイ介護職員が兼務

兼務者は合計から外す

年齢、勤続の合計は平均

職員の資格取得状況 (表-5)

| | | 社会福祉士 | 介護福祉士 | 介護支援専門員 | 看護師 | 准看護師 | 管理栄養士 | 栄養士 | 調理師 | (喀痰吸引)従事者 認定特定行為業務 | 介護職員基礎研修 |
|-----------|-------|-------|-----------|---------|-----|------|-------|-----|-----|-----------------------|----------|
| 特 養 | 生活相談員 | 1 | 1 | 1 | | | | | | | |
| | 介護職員 | | 27 (2) | 4 | | | | | | 22 (4) | 4 |
| | 看護職員 | | | | 3 | 2 | | | | | |
| デ イ | 生活相談員 | | 1 | 1 | | | | | | | |
| | 介護職員 | | 5 | 1 | | 1 | | | | 2 | |
| | 看護職員 | | | | 1 | 2 | | | | | |
| 栄 養 | 栄養士 | | | | | | | 1 | | | |
| | 調理職員 | | | | | | | 1 | 3 | | |
| 令和 5年度 合計 | | 1 | 34 | 7 | 4 | 5 | 0 | 2 | 3 | 24 | 4 |
| 令和 4年度 合計 | | 1 | 32 | 7 | 3 | 5 | 0 | 2 | 3 | 23 | 4 |

重複資格取得者あり

令和 6年 3月31日現在

※ () 内は、令和5年度合格者の内訳人数

特養 入退所状況 (表-6)

| | 実利用者数 | 入所者数 | 退所者数 |
|----|---------|---------|---------|
| 男 | 11人(10) | 4人(2) | 3人(3) |
| 女 | 54人(53) | 11人(11) | 11人(10) |
| 合計 | 65人(63) | 15人(13) | 14人(13) |

()内は、前年度の人数。

(入所者内訳) (表-7)

| | 病院 | 老人保健施設 | 在宅 | 有料老人ホーム |
|----|----|--------|----|---------|
| 男 | 0人 | 0人 | 2人 | 2人 |
| 女 | 4人 | 1人 | 2人 | 4人 |
| 合計 | 4人 | 1人 | 4人 | 6人 |

在宅4人は、清流の郷ショートステイからの入所。

(退所者内訳) (表-8)

| | 死亡 | 長期入院 | 在宅復帰 | その他 |
|----|-----|------|------|-----|
| 男 | 2人 | 0人 | 0人 | 1人 |
| 女 | 8人 | 0人 | 0人 | 3人 |
| 合計 | 10人 | 0人 | 0人 | 4人 |

市町村別(介護保険者)入所状況 (表-9)

| 渋川市 | 沼田市 | 中之条 | 昭和村 | 前橋市 | 桶川市 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 53人 | 1人 | 2人 | 1人 | 1人 | 1人 |

給食数 (表-10)

(単位：食)

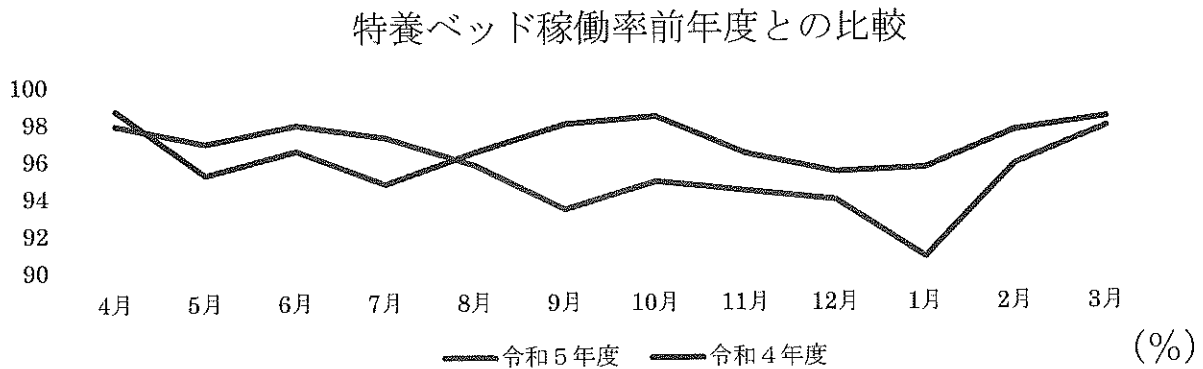
| | 一日平均食数 | 年間合計 |
|--------------|--------|--------|
| 特養利用者 | 138 | 50,787 |
| ショートステイ利用者 | 23 | 8,489 |
| デイサービス利用者 | 17 | 6,563 |
| 特養職員(夜勤等勤務者) | 3 | 1,186 |
| 合計 | 178 | 64,781 |

行事食 (表-11)

| 日付 | 行事名 | 食事 | 食事内容 |
|--------------|---------------|------------|---|
| 5月 6日 | 端午の節句 お茶会 | おやつ | ・柏餅、柏餅風和菓子、スベラカーゼ餅、抹茶 |
| 7月 7日 | 七夕 | 昼食 おやつ | ・七夕そうめん、星形フルーツ、他 ・和菓子、水ようかん、抹茶 |
| 30日 | 土用の丑 | 昼食 | ・うなぎちらし、すまし汁、他 |
| 8月 1日 14日 | 釜の口開け お盆 | おやつ おやつ | ・饅頭 ・おはぎ |
| 9月 9日 18日 | 重陽の節句 敬老の日 | 昼食 昼食 | ・栗御飯 ・赤飯、豚角煮、ケーキ、他 |
| 12月 15日 | 忘年会 | 昼食 | ・鍋、刺身盛り合わせ、ほうれん草の胡麻和え、他 |
| 22日 | 冬至 | 昼食 | ・かぼちゃ御飯、他 |
| 24日 | デイ忘年会 | 昼食 | ・ねぎとろまぐろ丼、茶碗蒸し、みかん、他 |
| 25日 | クリスマス | 昼食 | ・クリームシチュー、星形フルーツ、他 |
| | | おやつ | ・クリスマスケーキ、シャンメリー |
| 28日 | 餅つき | おやつ | ・おしるこ、おろし、きな粉、他 |
| 31日 | 大晦日 | 夕食 | ・年越しそば、天ぷら(えび・かき揚げ)、他 |
| 1月 1日 | 新年祝賀会 | 昼食 | ・ぶり照り焼き、豚角煮、紅白なます、黒豆、雑煮、 栗きんとん、きんぴら、紅白蒲鉾、昆布巻、みかん、 伊達巻、里芋煮、他 |
| 7日 | 七草粥 | 朝食 | ・七草粥風、他 |
| 8日 | 初釜 | おやつ | ・おしるこ、抹茶 |
| 2月 3日 | 節分 | おやつ | ・鬼プリン |
| 3月 3日 | ひなまつり | 昼食 | ・ちらし寿司、いちご饅頭、他 |
| 15日 | お楽しみ | 昼食 | ・ムースケーキ、ようかん、他 |
| 20日 | デザート お彼岸 | おやつ | ・ぼたもち |

・毎月1日は赤飯提供

特養ベッド稼働率（月別） （表－12）



| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 平均 |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 令和5年度 | 97.9 | 96.9 | 97.9 | 97.2 | 95.7 | 93.3 | 94.8 | 94.3 | 93.8 | 90.7 | 95.7 | 97.7 | 95.5 |
| 令和4年度 | 98.7 | 95.2 | 96.5 | 94.7 | 96.4 | 97.9 | 98.3 | 96.3 | 95.3 | 95.5 | 97.5 | 98.2 | 96.7 |

特養 月別 入院者推移 （表－13）

| | | | |
|--------|------|----------|-------|
| 実入院者数 | 5人 | 延入院者数 | 5人 |
| 延入院日数 | 136日 | 一人平均入院日数 | 27.2日 |
| 最長入院日数 | 65日 | 最少入院日数 | 2日 |

特養 月別 実入院者数と延入院日数 （表－14）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|----------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 実入院者数(人) | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | 2 |
| 延入院日数(日) | 0 | 0 | 0 | 28 | 7 | 30 | 30 | 0 | 2 | 0 | 19 | 20 |

特養 令和5年度実習生受入れ （表－15）

| 実習校名 | 実人数 | 延人数 | 備考 |
|---------------|-----|-----|-----------|
| 赤城北中学校 | 3人 | 9人 | 職場体験学習 |
| 群馬パース大学福祉専門学校 | 2人 | 34人 | 介護実習Ⅰ－(3) |
| スマイル | 4人 | 4人 | 初任者研修 |
| 群馬パース大学福祉専門学校 | 2人 | 46人 | 介護実習Ⅱ |
| 吾妻中央高等学校 | 2人 | 8人 | 1学年介護実習 |
| 吾妻中央高等学校 | 2人 | 6人 | 1学年介護実習 |

特養・ショート コロナ感染状況

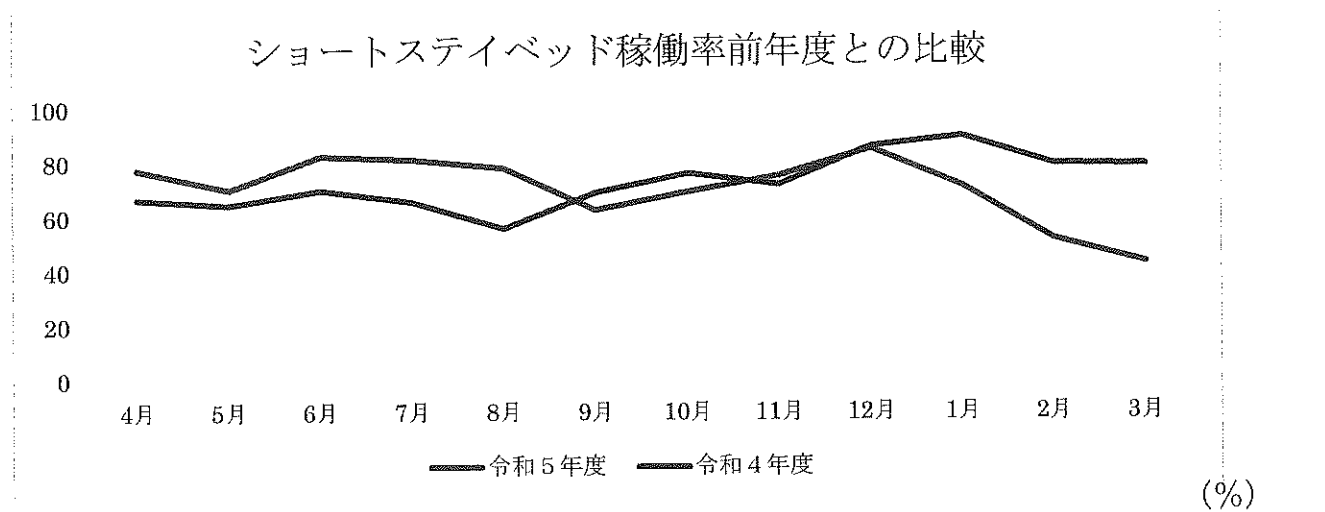
(表-16)

| 期間 (BCP発動期間) | 発生場所 | 利用者感染者数 | 職員感染者数 |
|------------------------------|---------|---------|--------|
| 8/13~8/22 (8/19~8/30) | 特養さくら棟 | 4人 | 4人 |
| 10/14~10/17 (10/14~10/25) | 特養もみじ棟 | 8人 | 1人 |
| 11/15~11/21 (11/15~11/29) | 特養さくら棟 | 3人 | 2人 |
| 2/5~2/8 ※2/16まで健康観察 | ショートステイ | 2人 | 0人 |
| 3/16~3/19 ※3/26まで健康観察 | ショートステイ | 3人 | 0人 |

期間は、最初の感染者が発生し、最後に感染者が発生した期間。

ショートステイベッド稼働率前年度との比較

(表-17)



| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 平均 |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 令和5年度 | 77.5 | 70.2 | 82.5 | 81.2 | 78.0 | 62.5 | 69.1 | 75.0 | 85.0 | 71.2 | 51.7 | 43.0 | 70.6 |
| 令和4年度 | 66.7 | 64.5 | 70.0 | 65.6 | 55.9 | 68.9 | 76.0 | 71.7 | 85.8 | 89.5 | 79.2 | 78.8 | 72.7 |

ショートステイ 月別 実利用者数と延べ利用者数

(表-18) (人)

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 実利用者数 | 21 | 20 | 18 | 21 | 19 | 19 | 22 | 22 | 23 | 21 | 18 | 16 | 240 |
| 延べ利用者数 | 279 | 261 | 297 | 302 | 290 | 225 | 257 | 270 | 316 | 265 | 180 | 160 | 3102 |

通所介護 実利用者・延べ人数・稼働率 (表-19)

| | 営業日数 | 実利用者数 | 延べ利用者数 | 1日平均利用者数 | 1日目標数 | 目標達成率 |
|--------|------|-------|--------|----------|-------|---------|
| 平成30年度 | 365日 | 815人 | 9,027人 | 24.7人 | 26.5人 | 98.98% |
| 令和元年度 | 366日 | 803人 | 9,020人 | 24.6人 | 24.5人 | 100.40% |
| 令和2年度 | 365日 | 700人 | 7,940人 | 21.9人 | 24.5人 | 89.40% |
| 令和3年度 | 365日 | 651人 | 7,963人 | 21.8人 | 22.7人 | 95.90% |
| 令和4年度 | 354日 | 576人 | 6,520人 | 18.4人 | 23.0人 | 77.62% |
| 令和5年度 | 366日 | 548人 | 5,911人 | 16.2人 | 20.8人 | 77.88% |

※令和4年度、7月(2日)と8月(9日)の合計11日間、コロナ感染により休館。

通所介護、要介護度別利用者推移 (表-20)

| | 要介護1 | 要介護2 | 要介護3 | 要介護4 | 要介護5 | 合計 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 平成30年度 | 3,549人 | 3,178人 | 937人 | 563人 | 800人 | 9,027人 |
| | 39.32% | 35.20% | 10.38% | 6.24% | 8.86% | 100% |
| 令和元年度 | 3,315人 | 3,132人 | 1,220人 | 506人 | 847人 | 9,020人 |
| | 36.75% | 34.72% | 13.53% | 5.61% | 9.39% | 100% |
| 令和2年度 | 3,105人 | 2,425人 | 1,417人 | 506人 | 487人 | 7,940人 |
| | 39.11% | 30.54% | 17.85% | 6.37% | 6.13% | 100% |
| 令和3年度 | 2,865人 | 2,602人 | 1,238人 | 779人 | 479人 | 7,963人 |
| | 35.98% | 32.68% | 15.55% | 9.78% | 6.01% | 100% |
| 令和4年度 | 1,864人 | 2,418人 | 1,041人 | 681人 | 516人 | 6,520人 |
| | 28.59% | 37.09% | 15.97% | 10.44% | 7.91% | 100% |
| 令和5年度 | 2,139人 | 1,670人 | 1,003人 | 476人 | 623人 | 5,911人 |
| | 36.19% | 28.25% | 16.97% | 8.05% | 10.54% | 100% |

日常生活支援総合事業、月別利用状況 (表-21)

| | 営業日数 | 実利用者数 | 延べ利用者数 |
|-------|------|-------|--------|
| 4月 | 30日 | 9人 | 62人 |
| 5月 | 31日 | 10人 | 64人 |
| 6月 | 30日 | 9人 | 64人 |
| 7月 | 31日 | 8人 | 57人 |
| 8月 | 31日 | 10人 | 73人 |
| 9月 | 30日 | 10人 | 69人 |
| 10月 | 31日 | 10人 | 76人 |
| 11月 | 30日 | 11人 | 64人 |
| 12月 | 31日 | 10人 | 68人 |
| 1月 | 31日 | 10人 | 71人 |
| 2月 | 29日 | 10人 | 56人 |
| 3月 | 31日 | 10人 | 67人 |
| 令和5年度 | 366日 | 117人 | 791人 |
| 令和4年度 | 354日 | 161人 | 1,091人 |

※令和4年度、7月(2日)と8月(9日)の合計11日間、コロナ感染により休館。

通所介護年間行事

(表-22)

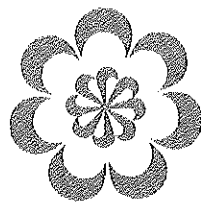
| 実施月 | 行事名 | 行事内容 | 職員研修 |
|-----|--------------|----------------------------------|-----------------------|
| 4月 | 花見 | コロナウィルス感染症の為、送迎時の花見を実施。おやつは施設で食す | 全体会議 |
| 5月 | お楽しみ会 | 昼食はミックスフライ定食提供。 | 全体会議 |
| 6月 | おやつ バイキング | バイキング形式で好みのものを選んでもらった | 全体会議 |
| | 慰問 | なつ旅・Cue 来荘 疑似旅行体験 | |
| 8月 | デイ祭り | コロナ感染で中止 | 全体会議 |
| 9月 | アユ釣り | 利用者がアユ釣り、炭火で焼いた鮎を召し上がっていただく。 | 第1回身体拘束等適正化研修 |
| 10月 | お楽しみ会 | リンゴ風呂とリンゴゲーム | 全体会議 |
| 11月 | パッチワーク展 | 利用者の制作した作品をデイホールにて多数展示 | 全体会議 |
| | のど自慢大会 | 採点式カラオケで利用者に歌っていただく。 | |
| 12月 | 忘年会 | デイホールで忘年会を実施 | 全体会議 |
| 1月 | 初詣 | 絵馬を書いていただき、施設内の清流神へお参り。福引を実施。 | 全体会議 |
| | 慰問 | 詩吟と腹話術 | |
| 2月 | 節分 | 無病息災を祈り年男・年女の方で豆まきを実施 | 全体会議 第2回身体拘束等適正化研修 |
| 3月 | ランチ バイキング | バイキング方式で昼食会を実施 | 全体会議 |

イベント浴は年4回

5月は「菖蒲湯」、7月は「薔薇湯」、10月は「リンゴ湯」、12月は「柚子湯」を企画し、7月と10月は、26日を「風呂の日」として実施。

令和5年度

事業報告書



社会福祉法人 永光会

居宅介護支援事業所 永光荘

1) 総括

令和5年度は、年度始め新任職員が着任し5人体制で事業運営を行った。常勤職員3人の体制となったことで、特定事業所加算Ⅲを取得し加算アップを行ったが、年度実績においては目標を達成することが出来なかった。

事業計画の年度目標と取組み結果を以下のように示す。

【年度目標①】

| | |
|----------|----------------------------|
| 担当月間利用者数 | 年度末155人(介護140人、予防15人) |
| 年間延べ件数 | 1,668件(1,488件(介護)180件(予防)) |

(評価)

令和5年度結果は下記の通り

| | |
|----------|---------------------------|
| 【月間】利用者数 | 年度末125人(介護104人、予防21人) |
| 【年間】延べ件数 | 1,483件(介護:1,209件、予防:274件) |
| 月平均利用者数 | 124件(介護:101件、予防:23件) |
| 新規受入れ件数 | 45件(介護:42件、予防:3件) |
| 支援終了件数 | 35件(介護:32件、予防:3件) |

新規利用者の受入れ状況については各医療機関、地域包括支援センターからの依頼に加え、過去に支援を行った利用者家族から新たな依頼を受けるなど幅広く依頼を受けることが出来た。一方で支援終了の原因として、永眠された方のほか、令和5年度は特に、新型コロナウイルス陽性を起因とした長期入院や、状態の著しい低下により施設入居となったケースが複数件あり、実数の増加に伸び悩んだ。

【年度目標②】

フレックスタイム制勤務を試行し、効果評価の実施

(評価)

令和5年10月から令和6年3月までの間フレックスタイム制度を試行した。各職員の業務量や生活事情に合わせて、働きやすい職場環境を整えることが出来たと評価、令和6年度以降で正式導入を行うこととした。

【年度目標③】

各種研修への参加機会の確保

(評価)

各職員が年度初めに設定した研修計画を基に受講。また、他事業所との合同事例検討会が年間2回開かれた。この研修では担当となる事業所が事例発表を行い支援に関する事例検討会を実施、全職員で参加し各自研鑽の場とすることが出来た。

その他、地域包括支援センター主催の介護支援専門員研修など、対面での研修が増えたことで充実した研修時間を確保することが出来た。

【年度目標④】

新型コロナウイルス感染症等の動向に応じた柔軟な利用者支援
(評価)

陽性者の蔓延はない1年であったが、家庭内感染のほか各事業所の状況によってはサービス利用が休止となってしまうケースもあり、断続的な対応に追われた。ケースによってはそれが要因で入院となるものもあった。事業所が休止となる事への対応と、罹患後に状態が変化(低下)した方への新たな調整対応など、臨時的対応が複数件あり、担当者以外でもフォローを行いながら事業所全体で調整にあたった。

2) 付表

表1-1 要介護度別利用状況

単位：人

| | 要介護1 | 要介護2 | 要介護3 | 要介護4 | 要介護5 | 合計 |
|-------|------|------|------|------|------|-------|
| 令和5年度 | 405 | 356 | 229 | 181 | 38 | 1,209 |
| 令和4年度 | 354 | 306 | 218 | 160 | 69 | 1,107 |

表1-2 月別利用状況

単位：人

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 男 | 33 | 34 | 35 | 36 | 36 | 39 | 38 | 41 | 40 | 42 | 40 | 42 | 456 |
| 女 | 63 | 63 | 63 | 63 | 63 | 62 | 63 | 64 | 64 | 63 | 60 | 62 | 753 |
| 合計 | 96 | 97 | 98 | 99 | 99 | 101 | 101 | 105 | 104 | 105 | 100 | 104 | 1,209 |
| 令和4年度 | 87 | 90 | 92 | 92 | 92 | 97 | 96 | 97 | 92 | 91 | 91 | 90 | 1,107 |

表2 介護予防 月別利用状況

単位：人

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 男 | 9 | 9 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 9 | 6 | 6 | 5 | 92 |
| 女 | 12 | 14 | 12 | 16 | 17 | 17 | 16 | 16 | 16 | 15 | 15 | 16 | 182 |
| 合計 | 21 | 23 | 20 | 24 | 25 | 25 | 24 | 24 | 25 | 21 | 21 | 21 | 274 |
| 令和4年度 | 17 | 17 | 18 | 18 | 18 | 17 | 17 | 16 | 16 | 17 | 17 | 19 | 207 |

表3 合同（5事業所）事例検討会実施状況

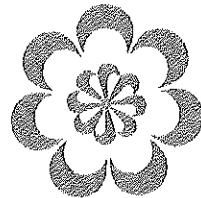
| 実施日 | 実施場所 | 事例検討内容 |
|-------------------------|-----------------------|--|
| 令和5年 7月19日(水) 13:30~ | 澁川市社会福祉協議会子持支所 会議室 | 事例提供事業所ケアマネが課題を感じている ケース事例を検討する (事例提供：ケアプランセンターねむの丘) |

| 実施日 | 実施場所 | 事例検討内容 |
|-------------------------|-----------------------|---|
| 令和5年12月13日(水) 13:30~ | 澁川市社会福祉協議会子持支所 会議室 | 事例提供事業所ケアマネが課題を感じている ケース事例を検討する (事例提供：JA北群澁川福祉センター) |

※上記2回、全職員にて参加。

令和5年度

事業報告書



社会福祉法人 永光会

渋川市古巻地域包括支援センター
指定介護予防支援事業所

1) 総括

渋川市古巻地域包括支援センター（以下、古巻包括）は、渋川市の事業委託を受け、委託期間2期目3年目、通算6年目の運営となった。

令和5年5月8日から新型コロナウイルスの扱いが5類に移行ため、顔を見て話せる関係を大切にと考えながら、各種委託業務を行った。

古巻圏域の居宅介護支援事業所の主任ケアマネとの交流会を初めて開催し、情報共有を図り、課題解決への糸口となったという感想や負担感の多い対応もあるが、前向きな気持ちになったという感想をいただき、地域包括ケア推進のための支援の大切さを再認識した。

虐待や支援困難ケースには、周辺のお店や近隣住民の協力が得られ、群馬県女性相談所や警察等の関係機関とも連携して対応できた。また、古巻地区の高齢者の暮らしや介護等に関する身近な「困りごとの総合相談窓口」として、本人及び親族からの相談の他、民生委員や周辺病院・居宅介護支援事業所からの連絡により表出したケースに対応し、それぞれ問題解決に向けることができた。

地域に根差す社会福祉法人永光会が運営する古巻包括として、高齢者がその人らしく在宅生活を送れるよう、関係機関と連携を図りながら総合的に支援活動を行っていくことを大切にして対応した。

2) 包括的支援事業

(1) 周知活動業務

新型コロナウイルスの感染は5類感染症への移行後も予防に細心の注意を払いながら（媒体とならない・施設内に持ち込まない）、独居者宅訪問を含む地域の高齢者や各関係機関等に向けて、引き続き古巻包括及びその母体である社会福祉法人永光会の周知を行った。

また、周知方法として「古巻地域包括支援センターたより」を発行（年3回）し、「永光会たより」に添えて地域に向けて情報発信した。

(2) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務 <表1ー1・2>

地域の高齢者が住み慣れた場所で暮らすことができるよう、介護サービスをご利用されていても心配なケースについては、同行訪問や関係機関へのつなぎ・仲介等を含め担当の居宅介護支援事業所ケアマネジャーに対する後方支援を行った。

また、介護予防支援業務を委託している市内外の居宅介護支援事業所のケアマネジャーに対して、予防プランの内容チェックや要介護認定者を含めケアマネジメントに関する質問・相談等（412件）の支援を行った。

(3) 総合相談支援業務 <表2>

地域で生活する高齢者等に関する多種多様な相談を受け、その内容によって必要・適切と考えられる各種専門機関や制度・サービス等へのつなぎや紹介を行った。

多くの問題を抱える高齢者に対しては、医療・福祉・生活面で切れ目のないサービス提供が図られるよう関係者と連携・調整し在宅生活継続の支援を行った。

引き続き民生委員の定例会出席（計 11 回）にて、関与いただいた事例を通じた報告等を行い、顔の見える関係性の構築に努めた。令和 5 年度についても地区担当民生委員から新規で 11 件の相談があり、その都度情報の共有や連携を図り対応を行った。

また、認知症による徘徊・迷い人や虐待発生の早期発見等、高齢者の安全確保に努めるべく、市の高齢者等あんしん見守りネットワーク事業に関して、新たに 2 店舗と協賛登録事業所の契約を交わした。

介護保険での担当ケアマネジャーとしての動きも含めた 3 職種合計の延べ対応件数としては年間で、6, 868 件であった。（相談内訳として、電話：2, 689 件・来所：428 件・訪問：2, 345 件・その他：1, 406 件）

（4）権利擁護事業

高齢者の権利擁護に関する活動を対応した。

高齢者虐待（疑いも含む）の案件では、前年度からの継続対応中のものが 1 件あり、新規の通報は 1 件。高齢者虐待対応マニュアルに沿って被虐待者の安全確保虐待対応を行い、生活の場の分離が出来たことで双方の安全確保が出来た。

状況確認のための情報収集に伴う訪問や電話等で 3 職種合計 239 回の対応を行った。今年度においては、成年後見申立て支援が 1 件あり、親族申し立てが行えたことで、負債の拡大を防ぐことが出来た。

消費者被害・特殊詐欺等の対応はなかった。渋川市消費生活センターとの連携や渋川市・群馬県警からの配信メールによる情報をもとに、詐欺（未遂）内容について把握し、民生委員の定例会出席時での周知や訪問時等に高齢者へ注意喚起を行った。

（5）介護予防教室・家族介護教室

半田地区の住民を対象として、地域の介護予防サポーターとも連携を図り、7 月に「終活を知りましょう」と題し（エンディングノートについて・断捨離についての講話と脳トレ紹介（行ぬかし歌唱）の介護予防教室を実施した。

（半田新屋敷前河原住民センターにて 19 人参加）

また、古巻地区の住民を対象として、2 月に口腔をテーマに、「お口の健康は全身の健康の基本」と題し、歯の模型を利用した歯みがきの仕方を具体的に説明する家族介護教室を実施した。（25 人参加）

（6）地域ケア会議の開催

認知症を伴い地域での生活に困難が生じているケースについて、民生委員・サービス事業者・担当ケアマネに参加いただき、地域ケア会議を開催した。ご本人の病識や現状理解がなく、さらにご家族からの協力を得られず、困難な状況が続いたが、情報を共有し、ガスコンロの消し忘れによるガス供給の停止や認知機能による生活困窮により、安全な生活のために施設入所へ導くことに繋がった。

自立支援型地域ケア会議を 9 月に 1 回開催した。住み慣れた地域で、健康意

欲を損なうことなく、自立意欲を持って継続して生活を送るにはどのように支えられるか、ケアマネ・病院理学療法士・管理栄養士・ヘルパー・歯科衛生士・薬剤師・生活支援コーディネーターらと検討を行った。開催方法は、コロナ禍のためオンラインにて開催した。2事例の検討を行い、今後の支援にすぐに活かすことができるご助言を多角的にいただくことができた。

(7) 在宅医療・介護連携推進業務

退院に伴う在宅復帰支援を含め利用者の状態や生活状況の変化に応じて、その都度適切と思われる介護サービス等の提供がなされるよう医療機関・介護サービス事業所との連携調整を行った。

(8) 生活支援体制整備事業

古巻地区地域助け合い活動推進協議体に構成員として年6回開催中、5回参加し、地域の課題を表出から、生活に直結する買い物支援について情報を集め、チラシを作成し、地域助け合い活動推進協議体として每户配布することが出来た。

(9) 認知症総合支援事業

一般市民を対象に認知症サポーター養成講座を実施し、認知症に関する理解と普及啓発を行った。その結果、関係者や受講者に対し新たに古巻包括及び社会福祉法人永光会の周知が図れた。(古巻公民館・八木原会館にて開催)

また、渋川市が主催する「小学生のための認知症まなびの講座」のスタッフ員として実施に協力した。(市内6小学校へ訪問)

その他の取組みとしては、高齢者に対し渋川市の「認知症あんしんガイド」を配布し理解と啓発に努めた。なお、徘徊高齢者等事前登録の新規申請支援は2件で渋川警察署担当課と連携を図っている。

3) 介護予防ケアマネジメント事業

総合事業対象者及び要支援認定者に対して、自立支援と住み慣れた地域での生活の継続に向けて、介護保険を始めとしその他各種フォーマル・インフォーマルなサービス利用が行えるよう支援を行った。

4) 災害発生時の対応

自然災害の一つと捉え、国や県・市からの新型コロナウイルスの感染症予防に関する情報について、地域の関係者や高齢者らに随時情報提供した。

地域の高齢者等に併設の特別養護老人ホーム永光荘が「福祉避難所」として位置づけられていることを周知し、10月には近隣特養とも協力し模擬避難訓練にも参加した。

引き続き古巻地区自主防災組織のメンバーとも情報の共有を図り、災害発生時には行政や特別養護老人ホーム永光荘と支援の連携を図って行くこととする。

5) 委託の在り方の検討

令和5年度については中央包括から新たな委託業務量の追加等はなく、それに伴っての他法人委託包括との間において内容を協議するような機会はなかった。なお、今年度内地域包括支援センター看護師の異動があった。そのため、事業開催の内容の変更や日時変更は生じたが、各委託包括と業務内容に関する情報の共有や課題に対する共通認識を図り、適宜中央包括や市役所担当課に確認・助言を求め、事業の開催に努めた。

6) 付表

表1-1 予防プラン月別件数

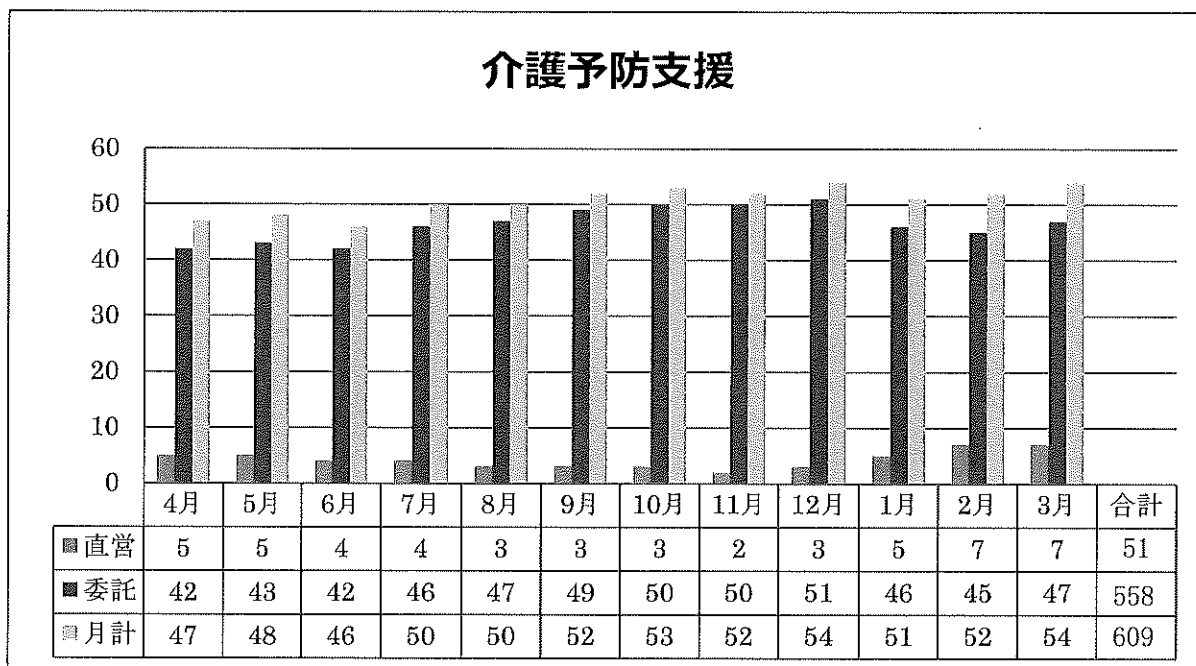


表1-2 総合事業プラン等月別件数

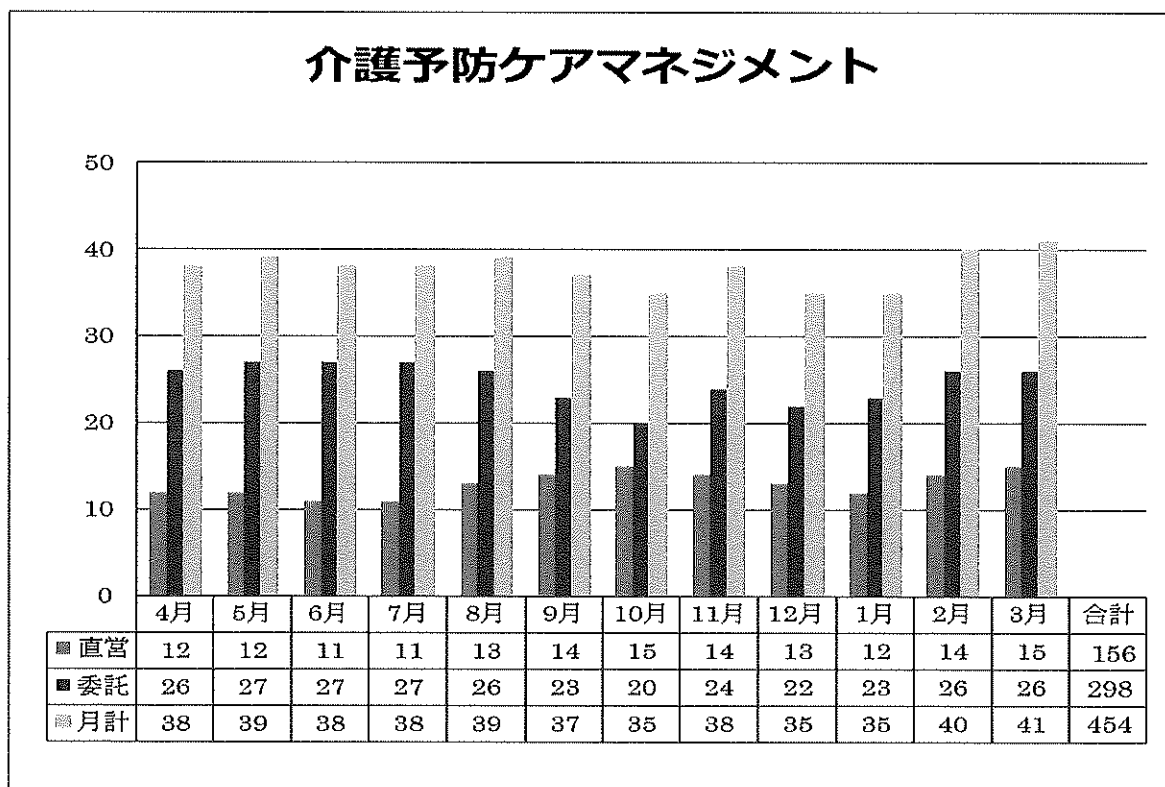


表2 総合相談支援業務

2689

